

10代20代女性における
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響についてのアンケート調査
報告書



特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

はじめに

私たち、特定非営利活動法人 BOND プロジェクトは、厚生労働省の地域自殺対策強化交付金(自殺防止対策事業)を受けて SNS 相談を平成 30 年 3 月から 2 年 5 ヶ月にわたって行ってきた。こうした政策が進んだおかげで、多くの生きづらさを抱える若年女性とつながり相談支援をすることができるようになってきた。そうした中で、ハッキリと言えることは、家庭での暴力、暴言、虐待、DV、モラハラ、不和など家庭が安心できる場所でない人が非常に多いということだ。

今回の新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛・休業要請により、「ステイホーム」のかけ声の下、多くの方が自宅で過ごすことを余儀なくされた。

もちろん、多くの方が様々な困難や不安を抱えて過ごしていたわけだが、元々家庭が安心できる場所でない若年女性は、逃げ場がなくなり、とりわけ深刻な苦しさを抱えていた。外出自粛・休業要請の中でも SNS やテレビ会議システムも活用しながら相談を受け続けてきた私たちの実感だ。

しかし、本当に生きづらさを抱える若年女性の声を私たちはちゃんと聞いているのだろうか。全国に多くの生きづらさを抱える若年女性がいる中で、BOND プロジェクトが相談に乗れるのは一部だし、SNS 相談も回線に対して相談が多すぎて、つながらないこともある。また、限られた相談時間の中で、相談してくれた人の悩みを全てちゃんと聞くことができているのかという課題もある。実際に今回のアンケートに 950 人もの若年女性が回答してくれたおかげで、私たち自身も新たな発見があった。

つらい気持ちを打ち明けてくれた若年女性たちの声をちゃんと政策をつくる方々、メディアの皆さん、この社会で暮らす少しでも多くの方に伝えていかなければ、生きづらさを抱える若年女性たちの話を聞いて相談に乗ったり、支援につなげていく社会資源も増えていかない。安心できる居場所のないまま苦しさを抱える若年女性がそのままになってしまう。

当事者の抱えるつらさを受け止めて、多くの人に届けること、それも私たちの役割だと感じている。このアンケートでは、950 人の声をしっかりと受け止め、どんなつらさを抱えているのか、背景はなんなのか、どのような支援が必要なのか、できる限り分かりやすくまとめるよう心がけた。

1. アンケートの目的

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛等による 10 代 20 代の生きづらさを抱えている女の子たちが受けた影響について調査し、実態を把握することで、今後の対策や支援に生かせるよう、社会に発信していくことを目的として実施した。

2. アンケートの概要

対象者： BOND プロジェクトの公式相談 LINE に友達登録している若年女性（過去に BOND プロジェクトに LINE 相談をした人や相談に至らないが関心を持って LINE 登録をしている者）。

実施方法： BOND プロジェクトの LINE に登録している若年女性にアンケートフォームを送付し回答を収集した。

- ・2020 年 6 月 16 日配信 9,501 人
- ・2020 年 6 月 23 日配信 9,593 人

回答数： 950 人

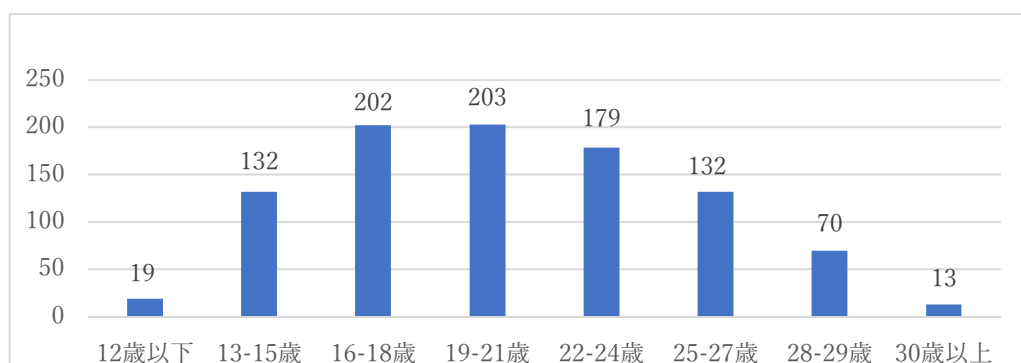
アンケート募集期間： 令和 2 年 6 月 16 日～令和 2 年 6 月 29 日

3. アンケートの結果

Q1 回答者の年齢

年齢は、13歳から27歳までが90%を占めている。16-18歳と19歳-21歳が一番多く、それぞれ21%を占めた。次いで、22歳-24歳が19%、13歳-15歳と25歳-27歳が14%となっている。

【グラフ1:Q1 回答者の年齢】



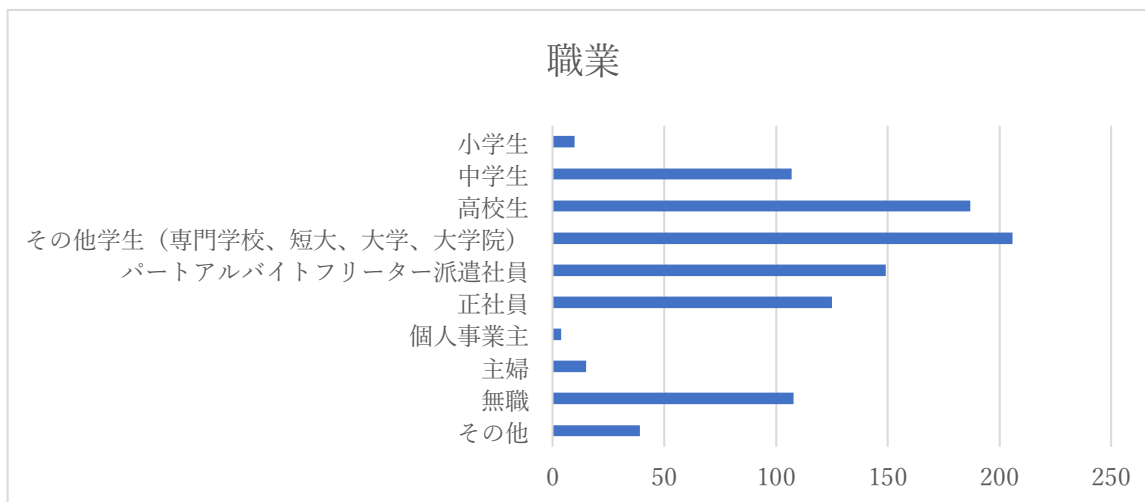
【表 1:Q1 回答者の年齢】

年齢	人数	割合 (%)
12歳以下	19	2%
13-15歳	132	14%
16-18歳	202	21%
19-21歳	203	21%
22-24歳	179	19%
25-27歳	132	14%
28-29歳	70	7%
30歳以上	13	1%
合計	950	100%

Q2 回答者の職業

職業は、学生・生徒が54%(510人)と半数強を占めている。内訳を見ると、その他学生(専門学校、短大、大学、大学院)が最も多く22%で、次に多い高校生が20%。中学生も11%を占めている。学生・生徒以外が46%(440人)を占めているが、その中で一番多いのがパート・アルバイト・フリーター・派遣社員で16%、正社員の13%、無職11%と続く。学生・生徒を除く回答者440人の中では、パート・アルバイト・フリーター・派遣社員が34%、正社員が28%、無職が25%となっている。

【グラフ2: Q2 回答者の職業】



【表 2: Q2 回答者の職業】

Q2

職業	人数	割合 (%)
小学生	10	1%
中学生	107	11%
高校生	187	20%
その他学生（専門学校、短大、大学、大学院）	206	22%
パート・アルバイト・フリーター・派遣社員	149	16%
正社員	125	13%
個人事業主	4	0%
主婦	15	2%
無職	108	11%
その他	39	4%
合計	950	100%

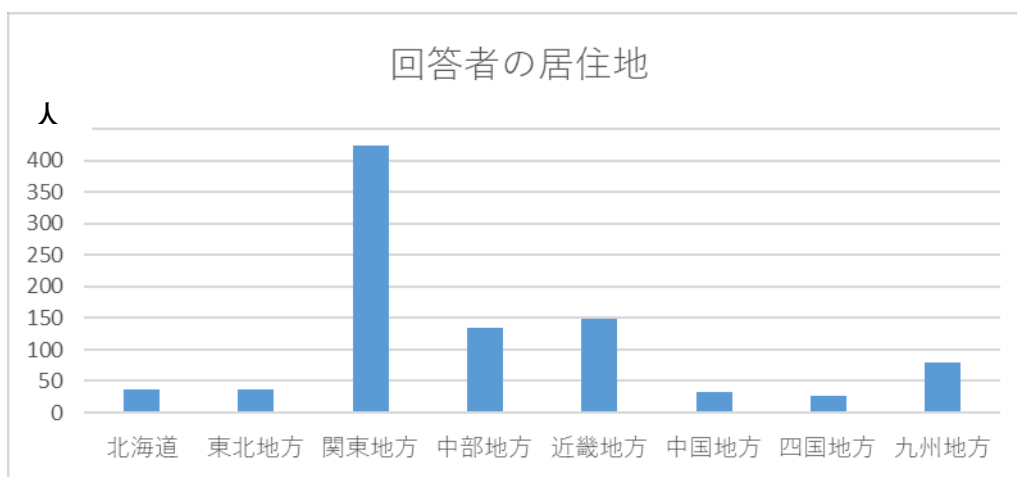
Q3 回答者の居住地

全ての都道府県の居住者から回答を得た。都道府県別に見ると、東京都が一番多く153人、その後、神奈川県106人、埼玉県68人、大阪府54人、千葉県52人、愛知県47人、福岡県37人、北海道36人と続いている。これらの都道府県は新型コロナウイルス感染症の感染者の多い都道府県と重なっている。

これらの都道府県に京都府21人と兵庫県27人を加えると感染者の多い都道府県上位10都道府県となるが、回答者のうち感染者の多い都道府県上位10都道府県の居住者は601人で63%である。

ブロック別に見ると、関東地方が最も多く424人(45%)、その後、近畿地方149人(16%)、中部地方135人(14%)、九州地方80人(8%)、東北地方67人(7%)、北海道36人(4%)、中国地方26人(3%)、四国地方26人(3%)となっている。

【グラフ3: Q3 回答者の居住地】



【表 3: Q3 回答者の居住地】

北海道	北海道								
36	36								
東北地方	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県			
36	6	9	23	7	7	15			
関東地方	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県		
424	13	13	19	68	52	153	106		
中部地方	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県
135	15	5	4	6	5	19	10	24	47
近畿地方	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県		
149	17	14	21	54	27	13	3		
中国地方	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県				
33	4	5	9	14	1				
四国地方	徳島県	香川県	愛媛県	高知県					
26	1	6	14	5					
九州地方	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
80	37	2	8	8	3	2	12	8	

(注)黄色いセルの都道府県は新型コロナウイルス感染症の感染者の多い上位10都道府県。

Q4 困ったこと

(1) 全体の集計結果(Q4 関係)

Q4 では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛や休業要請の影響で困ったことについて、①家族・おうちのこと、②体・心のこと、③ネット、SNS(スマートフォン)のこと、④お金、くらしのこと、⑤学校のこと、⑥望まない妊娠(予期せぬ妊娠)に関することの6つの項目に分けて聞いた。この期間に回数が増えたなど、困っていた項目があれば選択肢を選んでもらう形で調査を行った。

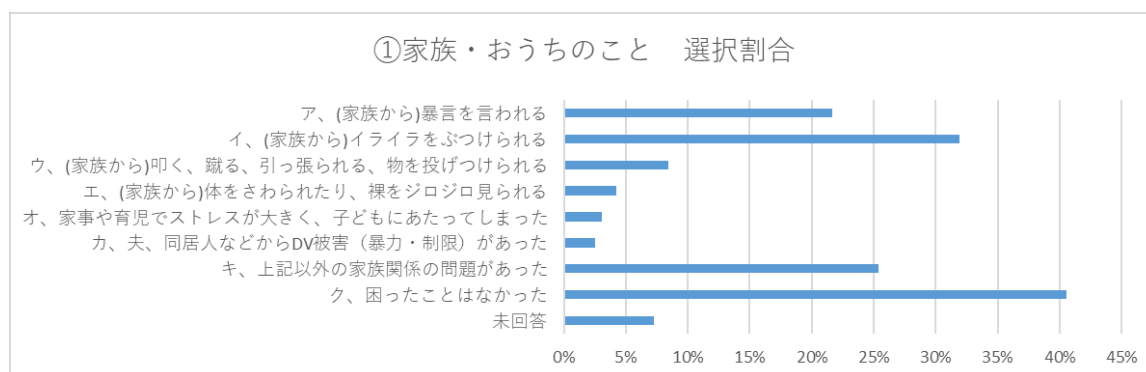
Q4-①(家族・おうちのこと)

未回答の69を除いた回答者881人のうち、困ったことがなかった人は385人(41%)だった。つまり、何らかの困ったことがあった人が59%いた。

困った内容(複数回答可)の内訳については、最も多いのが「(家族から)イライラをぶつけられる」が32%、「選択肢以外の家族関係の問題あった」が25%、「(家族から)暴言を言われる」が22%、「(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる」が8%と続く(回答者全体のうち選択した者の割合。これ以降も同様)。

こうしたことから、コロナウイルス感染症対策による外出自粛・休養要請などの状況の中で、若年女性が家族から暴言や暴力などを受ける回数が増えるなど家族について抱える課題が深刻化している状況が見て取れる。

【グラフ4-①: Q4-①家族・おうちのこと】



【表 4-①: Q4-①家族・おうちのこと】

※ 選択割合は、回答者全体のうち選択した者の割合。複数回答のため、選択割合を足しあげると100%を超える。これ以降の Q4 に関する表(表 4 関係)も同様。

①家族・おうちのこと	件数	選択割合
ア、(家族から)暴言を言われる	206	22%
イ、(家族から)イライラをぶつけられる	303	32%
ウ、(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる	80	8%
エ、(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる	40	4%
オ、家事や育児でストレスが大きく、子どもにあたってしまった	29	3%
カ、夫、同居人などからDV被害(暴力・制限)があった	24	3%
キ、上記以外の家族関係の問題があった	241	25%
ク、困ったことはなかった	385	41%
未回答	69	7%

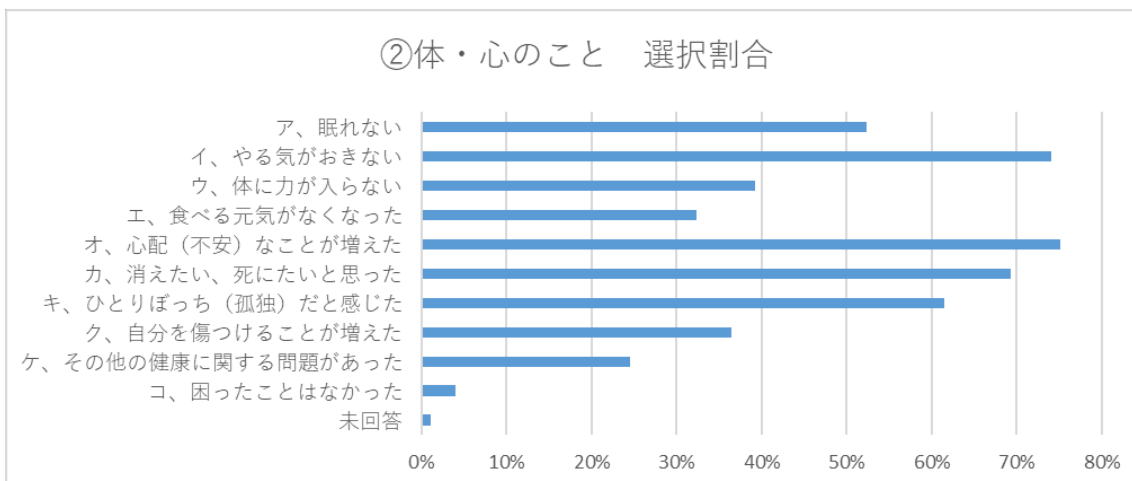
Q4-② 困ったこと(体・心のこと)

未回答の 10 を除いた回答者 940 人のうち、困ったことがなかった人は 38 人(4%)だった。つまり、困ったことがあった人が 96%いた。

困った内容(複数回答可)の内訳については、最も多いのが「心配(不安)なことが増えた」が 75%、「やる気が起こらない」が 74%、「消えたい、死にたいと思った」が 69%、「ひとりぼっち(孤独)だと感じた」が 61%、「眠れない」が 52%、「体に力が入らない」が 39%、「自分を傷つけることが増えた」が 36%と続く。

こうしたことから、多くの人が精神的な問題や身体的な問題を抱えていた状況が見て取れる。特に、「消えたい、死にたいと思った」が 69%、「自分を傷つけることが増えた」が 36%にも達していることから、希死念慮や自傷行為が深刻化している状況が明らかになった。

【グラフ4-②:Q4-②体・心のこと】



【表4-②:Q4-②家族・おうちのこと】

②体・心のこと	件数	選択割合
ア、眠れない	497	52%
イ、やる気がおきない	704	74%
ウ、体に力が入らない	373	39%
エ、食べる元気がなくなった	307	32%
オ、心配（不安）なことが増えた	714	75%
カ、消えたい、死にたいと思った	658	69%
キ、ひとりぼっち（孤独）だと感じた	584	61%
ク、自分を傷つけることが増えた	346	36%
ケ、その他の健康に関する問題があった	233	25%
コ、困ったことはなかった	38	4%
未回答	10	1%

Q4-③ネット、SNS(スマートフォン)のこと

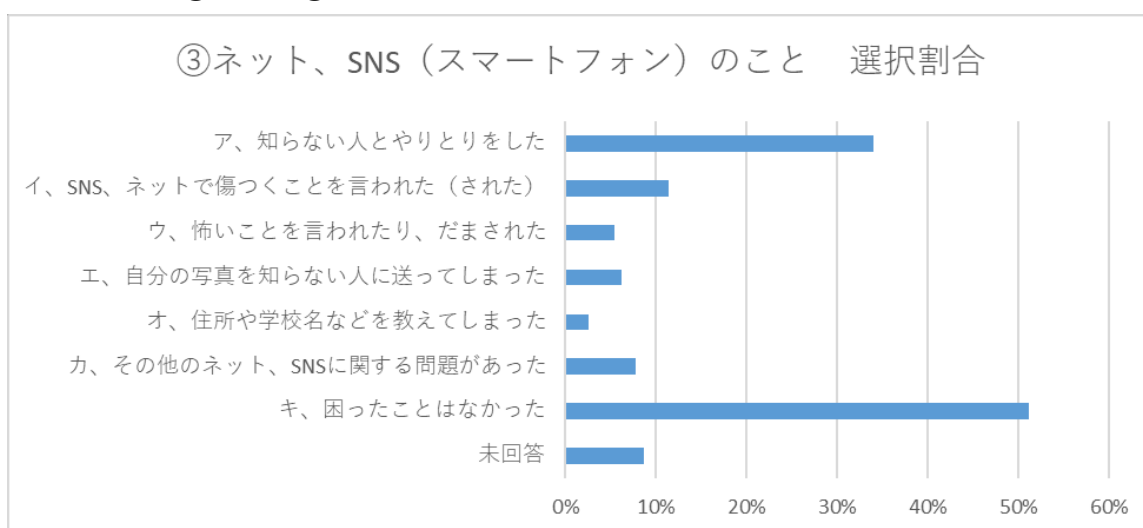
未回答の83を除いた回答者867人のうち、困ったことがなかった人は486人(56%)だった。つまり、何らかの困ったことがあった人が44%いた。

困った内容(複数回答可)の内訳については、最も多いのが「知らない人とやりとりをした」が34%、「SNS、ネットで傷つくことを言われた(された)」が11%、「その他のネット、SNSに関する問題あった」が8%、「自分の写真を知らない人に送ってしまった」が6%、「怖いことを言われたり、だまされた」が5%と続く。

こうしたことから、半数近くの人がネットや SNS に関する問題を抱えていたことが明らかになった。

なお、後述のとおり回答者の居住地を新型コロナウイルス感染症の感染者の多い都道府県上位 10 都道府県とそれ以外の地域に分けて回答を分析したところ、上位 10 都道府県では「困ったことはなかった」と回答した者の割合は 48%、それ以外の地域では 56%となっている。感染が流行していた地域(都市部が多い)では、よりネットや SNS の問題を抱える傾向にあることがわかった。

【グラフ 4-③: Q4—③ネット、SNS(スマートフォン)のこと】



【表 4-③: Q4—③ネット、SNS(スマートフォン)のこと】

③ネット、SNS (スマートフォン) のこと	件数	選択割合
ア、知らない人とやりとりをした	323	34%
イ、SNS、ネットで傷つくことを言われた(された)	109	11%
ウ、怖いことを言われたり、だまされた	52	5%
エ、自分の写真を知らない人に送ってしまった	59	6%
オ、住所や学校名などを教えてしまった	25	3%
カ、その他のネット、SNSに関する問題があった	74	8%
キ、困ったことはなかった	486	51%
未回答	83	9%

Q4-④ お金、くらしのこと

未回答の 70 を除いた回答者 880 人のうち、困ったことがなかった人は 345 人(39%)だった。つまり、何らかの困ったことがあった人が 61%いた。

困った内容(複数回答可)の内訳については、最も多いのが「お金がない、お金に困った」が 34%、「いつも行く所が休みで、行く場所がなかった」が 25%、「仕事が減った、なくなった」が 16%、「その他の生活上の困難があった」が 15%、「家を離れるなど今後の見通しが立たなくなった」が 13%、「パパ活、援助交際をした」が 6%、「借金をした」が 5%、「食べるものがなかった」が 4%と続く。

こうしたことから、多くの人がお金やくらしのことで困難を抱えている様子が見て取れる。

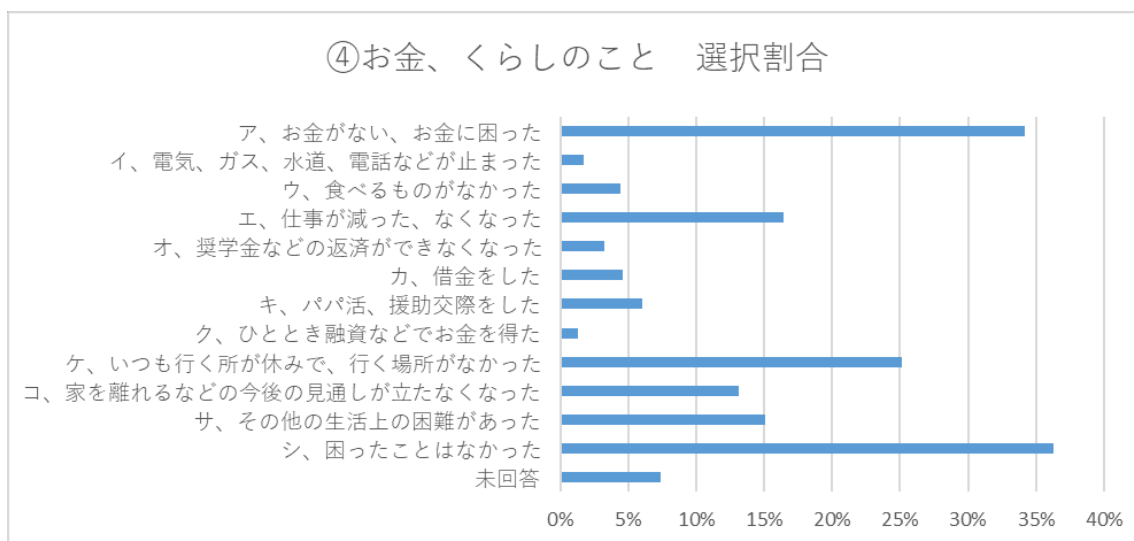
金銭的なことについては、「お金がない、お金に困った」、「仕事が減った、なくなった」のほか、「借金をした」、「食べるものがなかった」という回答も一定数あり、経済的な困難を抱えている様子が見えてくる。

金銭的なこと以外では、「いつも行く所が休みで、行く場所がなかった」、「家を離れるなど今後の見通しが立たなくなった」という回答が多く、日々の生活の中で家庭以外の居場所を失って困った様子や転居など実家を離れる計画の見通しが立たなくなった様子が見て取れる。

なお、後述のとおり回答者の居住地を新型コロナウイルス感染症の感染者の多い都道府県上位 10 都道府県とそれ以外の地域に分けて回答を分析したところ、上位 10 都道府県では「困ったことはなかった」と回答した者の割合は 33%、それ以外の地域では 41%となっており、いずれも困難を抱えている者が存在しているが、感染が流行していた地域(都市部が多い)では、よりお金やくらしに関する問題を抱える傾向にあることがわかった。

特に、「いつも行く所が休みで、行く場所がなかった」の回答割合は、上位 10 都道府県で 28%、それ以外の地域で 19%と差が大きく、「仕事が減った、なくなった」についても上位 10 都道府県で 18%、それ以外の地域で 13%と差が大きい。居場所と仕事の両面で感染者の多い都市部で困難が相対的に大きかったことがうかがえる。

【グラフ4-④: Q4-④お金、くらしのこと】



【表4-④: Q4-④お金、くらしのこと】

④お金、くらしのこと	件数	選択割合
ア、お金がない、お金に困った	325	34%
イ、電気、ガス、水道、電話などが止まった	16	2%
ウ、食べるものがなかった	42	4%
エ、仕事が減った、なくなった	156	16%
オ、奨学金などの返済ができなくなった	31	3%
カ、借金をした	44	5%
キ、パパ活、援助交際をした	57	6%
ク、ひととき融資などでお金を得た	12	1%
ケ、いつも行く所が休みで、行く場所がなかった	239	25%
コ、家を離れるなどの今後の見通しが立たなくなった	125	13%
サ、その他の生活上の困難があった	143	15%
シ、困ったことはなかった	345	36%
未回答	70	7%

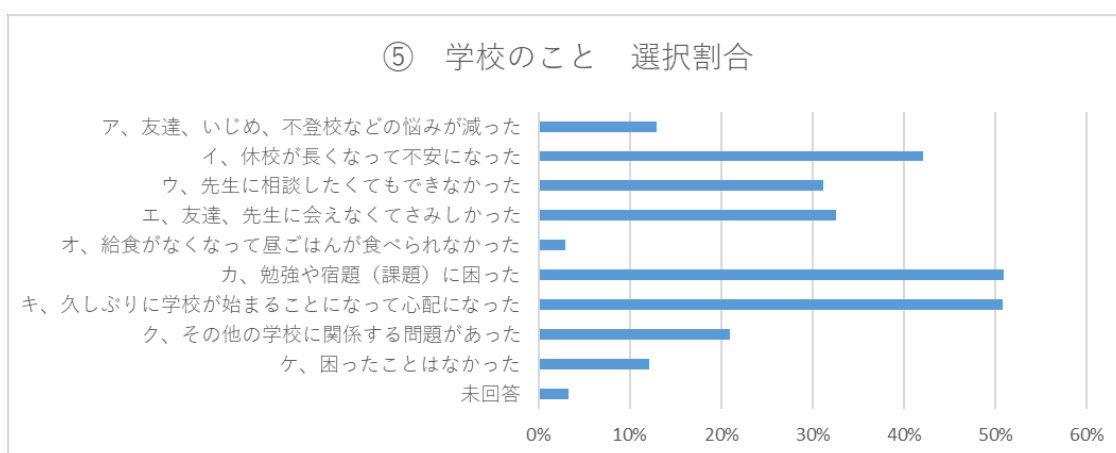
Q4-⑤ 学校のこと

全回答者 950 のうち、職業について「小学生」「中学生」「高校生」「その他学生(専門学校、短大、大学、大学院)」を選択した者は 510 人だった。このうち未回答の 17 を除いた回答者 493 人のうち「困ったことはなかった」と回答した人は 62 人(13%)であった。つまり、何らかの困ったことがあった人が 87%いた。

困った内容(複数回答可)の内訳については、最も多いのが「勉強や宿題(課題)に困った」、「久しぶりに学校が始まることになって心配になった」が 51%、「休校が長くなって不安になった」が 42%、「友達、先生に会えなくてさみしかった」が 33%、「先生に相談したくてもできなかった」が 31%と続く。一方で、「友達、いじめ、不登校などの悩みが減った」を選択した者が 13%いた。

こうしたことから、多くの学生が休校や休校の解除といった大きな変化により、学業の不安や、普段の人間関係や相談相手から離れてしまったことによる不安を抱えていたことが見て取れる。ただし、いじめなどの人間関係や不登校といった学校に関する課題を普段から抱えている人の悩みが減ったケースもあることが見て取れる。

【グラフ 4-⑤: Q4—⑤学校のこと】



【表 4-⑤: Q4—⑤学校のこと】

⑤学校のこと	件数	選択割合
ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った	66	13%
イ、休校が長くなって不安になった	215	42%
ウ、先生に相談したくてもできなかった	159	31%
エ、友達、先生に会えなくてさみしかった	166	33%
オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった	15	3%
カ、勉強や宿題(課題)に困った	260	51%
キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった	259	51%
ク、その他の学校に関する問題があった	107	21%
ケ、困ったことはなかった	62	12%
未回答	17	3%

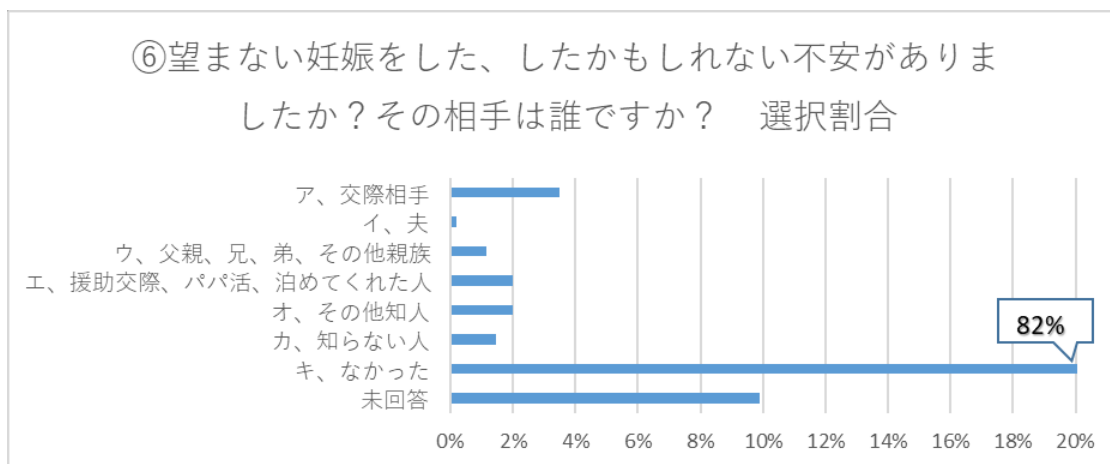
Q4-⑥ 望まない妊娠(予期せぬ妊娠)について

未回答の94人を除いた回答者856人のうち、(望まない妊娠やしたかもしれない不安が)なかった人は783人(91%)だった。つまり、望まない妊娠をした、したかもしれない不安があった人が9%いたことになる。

相手については、最も多い「交際相手」が33人(3%)、「その他知人」が19人(2%)いた。このほかに、「援助交際、パパ活、泊めてくれた人」が19人(2%)、「知らない人」が14人(1%)いた。さらには、「父親、兄、弟、その他親族」が11人(1%)いることがわかった。

なお、後述のとおり回答者の居住地を新型コロナウイルス感染症の感染者の多い都道府県上位10都道府県とそれ以外の地域に分けて回答を分析したところ、上位10都道府県では「なかった」と回答した者の割合は81%、それ以外の地域では84%となっており、やや感染が流行していた地域(都市部が多い)の方が困った人の割合が多かった。

【グラフ4-⑥: Q4-⑥望まない妊娠をした、したかもしれない不安、相手】



【表 4-⑥: Q4-⑥望まない妊娠をした、したかもしれない不安、相手】

⑥望まない妊娠をした、したかもしれない不安がありましたか？ その相手は誰ですか？	件数	選択割合
ア、交際相手	33	3%
イ、夫	2	0%
ウ、父親、兄、弟、その他親族	11	1%
エ、援助交際、パパ活、泊めてくれた人	19	2%
オ、その他知人	19	2%
カ、知らない人	14	1%
キ、なかった	783	82%
未回答	94	10%

(2) 流行地とそれ以外の地域の集計結果 (Q4 関係)

Q4 の困ったことについて、回答者の居住地を新型コロナウイルス感染症の感染者数の多い上位 10 都道府県(北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県の 10 都道府県。以下「流行地」という。)の回答者(950 人のうち 601 人)とそれ以外の県の回答者(950 人のうち 349 人)で比較したところ、いずれも困っている人が多いものの、流行地の人の方がより困っている人が多い様子が見て取れた。

① 流行地で困った人の割合が大きかった項目

Q4-①から⑥までのいずれの質問についても「困ったことはなかった」と回答した人の割合は流行地の方が低かったが、特にその傾向が大きかったのは、Q4③ネット、SNS(スマートフォン)のことについてであり、「困ったことはなかった」と回答した人の割合は、流行地 48%、それ以外 56%であった。つまり、ネット SNS(スマートフォン)のことについては、流行地の居住者の方が困っている人が多い様子がうかがえる。

また、Q4④お金、暮らしのことについても同様に差が大きく、「困ったことはなかった」と回答した人の割合は、流行地 33%、それ以外 41%だった。つまり、お金、暮らしのことについては流行地の方が困っている人が多い様子がうかがえる。

さらに、Q4⑤学校のことについても次いで差が大きく、困ったことはなかったと回答した人の割合、流行地 36%、それ以外 41%だった。つまり、学校のことについては、流行地の居住者の方が困っている人が多い様子がうかがえる。

② 具体的な困りごとの傾向

具体的な困りごとの選択の状況について、細かく差異を見てみると、Q4-①家族・おうちのことについては、困っている人の割合は大きな差はないものの、具体的な困りごとについては選択割合に差が見られた。家族からの暴言、イライラをぶつけられる、叩くなどの暴力のいずれも4～9%流行地の方が選択した人の割合が多かった。

Q4-②体・心のことについては、流行地の方が困っている人の割合が少し高いが、いずれの地域も困っている人の割合が極めて高い。具体的な困りごとについては流行地の方が選択割合が高い項目が多く、「眠れない」が8%、「食べる元気がなくなった」が7%、「体に力が入らない」と「ひとりぼっち(孤独)だと感じた」が5%の差がそれぞれあった。

Q4-③ネット、SNS(スマートフォン)のことについては、流行地の方が困っている人の割合が8%高かったが、具体的な困りごとの選択割合に大きな差異は見られなかった。

Q4-④お金、くらしのことについては、流行地の方が困っている人の割合が8%高かった。具体的な困りごとについても流行地の方が選択割合の高い項目が多く、特に「いつも行く所が休みで、行く場所がなかった」が9%、「仕事が減った、なくなった」が5%大きい。

Q4-⑤学校のことについては、流行地の方が困っている人の割合が5%高かった。具体的な困りごとについては「友達、先生に会えなくてさみしかった」の選択割合が流行地の方が6%高かった一方、「勉強や宿題(課題)に困った」、「久しぶりに学校が始まることになって心配になった」の選択割合は、流行地以外の地域の方が3%高かった。

Q4-⑥望まない妊娠(予期せぬ妊娠)については、やや流行地の方が該当者が多かったが、相手については該当者の人数が多くないこともあり、「援助交際、パパ活、泊めてくれた人」を選択した割合について、やや流行地が高い他は大きな差は見られなかった。

【表 4-①-①: Q4-①地域別: 家族・おうちのこと】

Q4 ①家族・おうちのこと	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、(家族から)暴言を言われる	151	25%	55	16%
イ、(家族から)イライラをぶつけられる	203	34%	100	29%
ウ、(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる	59	10%	21	6%
エ、(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる	22	4%	18	5%
オ、家事や育児でストレスが大きく、子どもにあたってしまった	17	3%	12	3%
カ、夫、同居人などからDV被害(暴力・制限)があった	17	3%	7	2%
キ、上記以外の家族関係の問題があった	154	26%	87	25%
ク、困ったことはなかった	238	40%	147	42%
未回答	44	7%	25	7%
合計	905	100%	472	100%

【表 4-②-①: Q4-②地域別: 体・心のこと】

Q4 ②体・心のこと	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、眠れない	332	55%	165	47%
イ、やる気がおきない	452	75%	252	72%
ウ、体に力が入らない	248	41%	125	36%
エ、食べる元気がなくなった	210	35%	97	28%
オ、心配(不安)なことが増えた	457	76%	257	74%
カ、消えたい、死にたいと思った	414	69%	244	70%
キ、ひとりぼっち(孤独)だと感じた	380	63%	204	58%
ク、自分を傷つけることが増えた	220	37%	126	36%
ケ、その他の健康に関する問題があった	152	25%	81	23%
コ、困ったことはなかった	21	3%	17	5%
未回答	6	1%	4	1%
合計	2892	100%	1572	100%

【表 4-③-①: Q4-③地域別: ネット、SNS(スマートフォン)のこと】

Q4 ③ネット、SNS(スマートフォン)のこと	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、知らない人とやりとりをした	211	35%	112	32%
イ、SNS、ネットで傷つくことを言われた(された)	73	12%	36	10%
ウ、怖いことを言われたり、だまされた	30	5%	22	6%
エ、自分の写真を知らない人に送ってしまった	37	6%	22	6%
オ、住所や学校名などを教えてしまった	18	3%	7	2%
カ、その他のネット、SNSに関する問題があった	53	9%	21	6%
キ、困ったことはなかった	291	48%	195	56%
未回答	56	9%	27	8%
合計	769	100%	442	100%

【表 4-④-①: Q4-④地域別: お金、くらしのこと】

Q4 ④お金、くらしのこと	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、お金がない、お金に困った	212	35%	113	32%
イ、電気、ガス、水道、電話などが止まった	9	1%	7	2%
ウ、食べるものがなかった	30	5%	12	3%
エ、仕事が減った、なくなった	109	18%	47	13%
オ、奨学金などの返済ができなくなった	15	2%	16	5%
カ、借金をした	21	3%	23	7%
キ、パパ活、援助交際をした	42	7%	15	4%
ク、ひととき融資などでお金を得た	5	1%	7	2%
ケ、いつも行く所が休みで、行く場所がなかった	171	28%	68	19%
コ、家を離れるなどの今後の見通しが立たなくなった	75	12%	50	14%
サ、その他の生活上の困難があった	99	16%	44	13%
シ、困ったことはなかった	201	33%	144	41%
未回答	43	7%	27	8%
合計	1032	100%	573	100%

【表 4-⑤-①: Q4-⑤地域別: 学校のこと】

Q4 ⑤学校のこと	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った	47	8%	23	7%
イ、休校が長くなって不安になった	143	24%	78	22%
ウ、先生に相談したくてもできなかった	103	17%	60	17%
エ、友達、先生に会えなくてさみしかった	122	20%	48	14%
オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった	12	2%	4	1%
カ、勉強や宿題(課題)に困った	161	27%	104	30%
キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった	162	27%	104	30%
ク、その他の学校に関する問題があった	80	13%	39	11%
ケ、困ったことはなかった	215	36%	144	41%
未回答	98	16%	42	12%
合計	1143	100%	646	100%

【表 4-⑥-①: Q4-⑥望まない妊娠をした、したかもしれない不安、相手】

Q4 ⑥望まない妊娠をした、したかもしれない不安がありましたか？	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、交際相手	21	3%	12	3%
イ、夫	1	0%	1	0%
ウ、父親、兄、弟、その他親族	8	1%	3	1%
エ、援助交際、パパ活、泊めてくれた人	16	3%	3	1%
オ、その他知人	12	2%	7	2%
カ、知らない人	11	2%	3	1%
キ、なかった	489	81%	294	84%
未回答	62	10%	32	9%
合計	620	100%	355	100%

(3) 回答者の年齢や職業別の集計結果(Q4 関係)

Q4 の困ったことについて、回答者の年齢別・職業別に傾向を見たところ、以下のような傾向が見て取れた。

Q4-①家族・おうちのことについては、「(家族から)暴言を言われる」「(家族からイライラをぶつけられる)」「(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる」「(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる」といった回答について、10代の低年齢層、あるいは小学生、中学生、高校生で選択割合が高かった。

また、学生以外の職業では、選択割合が低い傾向にあるが、無職の者だけはやや選択割合が高い。「困ったことはなかった」と回答した割合は、全回答者平均で41%であるのに対し、正社員では51%となっており、また、具体的な困りごとを選択した割合も他の職業に比べて顕著に低かった。

Q4-②体・心のことについては、「困ったことはなかった」と回答した割合が、30歳以上の階層で15%(13人中2人)だったほか、25-27歳の年齢階層では8%であるほか、その他の全ての年齢階層で5%以下であり、全ての年齢層で体や心も課題を抱えている人がほとんどであったことが分かる。

また、16-18歳の年齢階層(または高校生)では、ほとんど全ての具体的な困りごとについて平均以上の選択率であり、特に心身のつらさを感じていた様子がうかがい知れる。また、13-15歳の年齢階層(または中学生)も比較的選択割合が高い。特に「自分を傷つけることが増えた」と回答した割合は、全回答者平均が36%に対して中学生47%、高校生47%と高かった。

学生以外の職業別に回答を見ると、具体的な困りごとを選択した割合は、無職や、パート・アルバイト・フリーター・派遣社員が平均より高く、主婦と正社員は平均より低い。

Q4-③ネット、SNS(スマートフォン)のことについては、「困ったことはなかった」と回答した割合を見てみると、30歳以上の年齢階層が77%と高いことを除くと、年齢階層による極端に大きな差異は見られないが、選択割合の低い年齢階層は、①12歳以下(42%)、②16-18歳(47%)、13-15歳(48%)の順番となっており、やや低年齢層で困っている人が多いことがうかがえる。

職業別に見ても、同様に小学生、中学生、高校生は「困ったことはなかった」と回答した割合が平均よりも低いほか、無職の人が全回答者平均 51%に対して 35%と最も低く、具体的な困りごとの選択割合も全ての選択肢で全回答者平均を超えた。

こうしたことから、低年齢層と無職の人で特に課題を抱えている様子が見えてくる。

Q4-④お金、くらしのことについては、「困ったことはなかった」と回答した割合を職業別に見てみると、学生の選択割合が高く、学生以外の職業の人の選択割合が高い傾向が顕著である。特に、パート・アルバイト・フリーター・派遣社員が最も低く 18%、次に無職の 19%と、全回答者平均の 36%を大きく下回っており、正社員は全回答者平均と同じ 36%だった。無職や不安定な就労形態の人がより経済的に困っている様子が見えてくる。

Q4-⑤学校のことについては、どの区分の学生も「困ったことはなかった」と回答した割合は 20%以下であり、多くの学生が困りごとを抱えていた様子が見えてくる。学生区分の中の差異を見ると、高校生は「休校が長くなって不安になった」「先生に相談したくてもできなかった」を回答した割合が高い傾向が見て取れた。

Q4-⑥望まない妊娠(予期せぬ妊娠)については、「なかった」と回答した割合を年齢別に見てみると、前回 82%に対して 22-24 歳の年齢階層が 77%であり、他の年齢階層に比べてやや望まない妊娠(予期せぬ妊娠)の困りごとが多かった傾向が見て取れる。

相手について見てみると、サンプルは少ないが、パート・アルバイト・フリーター・派遣社員の人と、無職の人で、「援助交際、パパ活、泊めてくれた人」「その他知人」「知らない人」の割合がやや高い。

【表 4-①-②: Q4—①年齢別: 家族・おうちのこと】

(注)年齢別、職業別の集計表については、全回答者の選択割合(選択者/全回答者)よりも高い割合を薄いオレンジ、5%~9%高い割合を濃いオレンジ、10%以上高い割合を最も濃いオレンジのセルとした。同様に、低い割合を薄い青、5%~9%高い割合を濃い青、10%以上高い割合を最も濃い青のセルとした。これ以降の全ての年齢別、職業別の集計表について同様の処理をした。

Q4 ①家族・おうちのこと	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、(家族から)暴言を言われる	206	22%	7	37%	29	22%	55	27%	48	24%	31	17%	15	11%	17	24%	4	31%
イ、(家族から)イライラをぶつけられる	303	32%	8	42%	42	32%	88	44%	64	32%	56	31%	27	20%	13	19%	5	38%
ウ、(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる	80	8%	3	16%	19	14%	20	10%	20	10%	11	6%	3	2%	3	4%	1	8%
エ、(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる	40	4%	3	16%	7	5%	14	7%	6	3%	4	2%	4	3%	1	1%	1	8%
オ、家事や育児でストレスが大きく、子どもにあたってしまった	29	3%	0	0%	2	2%	4	2%	5	2%	6	3%	5	4%	5	7%	2	15%
カ、夫、同居人などからDV被害(暴力・制限)があった	24	3%	0	0%	0	0%	3	1%	7	3%	6	3%	3	2%	3	4%	2	15%
キ、上記以外の家族関係の問題があった	241	25%	3	16%	29	22%	47	23%	56	28%	45	25%	38	29%	18	26%	5	38%
ク、困ったことはなかった	385	41%	7	37%	61	46%	74	37%	78	38%	74	41%	61	46%	25	36%	5	38%
未回答	69	7%	1	5%	10	8%	12	6%	14	7%	18	10%	8	6%	6	9%	0	0%
合計	1377		32		199		317		298		251		164		91		25	

【表 4-①-③: Q4—①職業別: 家族・おうちのこと】

Q4 ①家族・おうちのこと	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生(専門学校、短大、大学、大学院)		5パートアルバイト・フリーター派遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、(家族から)暴言を言われる	206	22%	4	40%	23	21%	54	29%	46	22%	26	17%	10	8%	2	50%	2	13%	30	28%	9	23%
イ、(家族から)イライラをぶつけられる	303	32%	4	40%	36	34%	77	41%	70	34%	44	30%	20	16%	2	50%	2	13%	39	36%	9	23%
ウ、(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる	80	8%	3	30%	14	13%	23	12%	17	8%	8	5%	3	2%	0	0%	1	7%	5	5%	6	15%
エ、(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる	40	4%	3	30%	6	6%	12	6%	6	3%	4	3%	1	1%	1	25%	0	0%	4	4%	3	8%
オ、家事や育児でストレスが大きく、子どもにあたってしまった	29	3%	0	0%	0	0%	4	2%	2	1%	10	7%	1	1%	0	0%	8	53%	2	2%	2	5%
カ、夫、同居人などからDV被害(暴力・制限)があった	24	3%	0	0%	0	0%	3	2%	5	2%	6	4%	2	2%	1	25%	1	7%	2	2%	4	10%
キ、上記以外の家族関係の問題があった	241	25%	2	20%	24	22%	40	21%	57	28%	38	26%	29	23%	1	25%	6	40%	35	32%	9	23%
ク、困ったことはなかった	385	41%	5	50%	48	45%	69	37%	87	42%	53	36%	64	51%	2	50%	1	7%	38	35%	18	46%
未回答	69	7%	0	0%	6	6%	13	7%	10	5%	13	9%	16	13%	0	0%	1	7%	9	8%	1	3%
合計	1377		21		157		295		300		202		146		9		22		164		61	

【表 4-②-②: Q4-②年齢別: 体・心のこと】

Q4 ②体・心のこと	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、眠れない	497	52%	9	47%	67	51%	99	49%	116	57%	96	54%	61	46%	43	61%	6	46%
イ、やる気がおきない	704	74%	10	53%	108	82%	167	83%	145	71%	124	69%	92	70%	48	69%	10	77%
ウ、体に力が入らない	373	39%	3	16%	63	48%	83	41%	67	33%	67	37%	56	42%	27	39%	7	54%
エ、食べる元気がなくなった	307	32%	4	21%	48	36%	73	36%	61	30%	51	28%	43	33%	23	33%	4	31%
オ、心配(不安)なことが増えた	714	75%	14	74%	91	69%	166	82%	157	77%	130	73%	95	72%	53	76%	8	62%
カ、消えたい、死にたいと思った	658	69%	12	63%	83	63%	151	75%	144	71%	126	70%	89	67%	47	67%	6	46%
キ、ひとりぼっち(孤独)だと感じた	584	61%	9	47%	79	60%	133	66%	125	62%	107	60%	80	61%	44	63%	7	54%
ク、自分を傷つけることが増えた	346	36%	8	42%	64	48%	86	43%	71	35%	54	30%	38	29%	23	33%	2	15%
ケ、その他の健康に関する問題があった	233	25%	4	21%	18	14%	55	27%	51	25%	43	24%	36	27%	20	29%	6	46%
コ、困ったことはなかった	38	4%	1	5%	6	5%	3	1%	4	2%	9	5%	11	8%	2	3%	2	15%
未回答	10	1%	0	0%	1	1%	1	0%	1	0%	3	2%	2	2%	2	3%	0	0%
合計	4464		74		628		1017		942		810		603		332		58	

【表 4-②-③: Q4-②職業別: 体・心のこと】

Q4 ②体・心のこと	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生 (専門学校、短大、 大学、大学院)		5パートアル バイト フリーター派 遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、眠れない	497	52%	5	50%	56	52%	90	48%	114	55%	85	57%	55	44%	2	50%	3	20%	65	60%	22	56%
イ、やる気がおきない	704	74%	3	30%	87	81%	156	83%	152	74%	105	70%	79	63%	2	50%	11	73%	79	73%	30	77%
ウ、体に力が入らない	373	39%	0	0%	48	45%	78	42%	72	35%	62	42%	47	38%	2	50%	5	33%	44	41%	15	38%
エ、食べる元気がなくなった	307	32%	2	20%	40	37%	65	35%	61	30%	48	32%	32	26%	2	50%	4	27%	40	37%	13	33%
オ、心配(不安)なことが増えた	714	75%	5	50%	76	71%	149	80%	157	76%	113	76%	90	72%	3	75%	10	67%	85	79%	26	67%
カ、消えたい、死にたいと思った	658	69%	6	60%	65	61%	141	75%	134	65%	111	74%	79	63%	2	50%	9	60%	85	79%	26	67%
キ、ひとりぼっち(孤独)だと感じた	584	61%	4	40%	63	59%	116	62%	127	62%	94	63%	74	59%	2	50%	5	33%	76	70%	23	59%
ク、自分を傷つけることが増えた	346	36%	5	50%	50	47%	87	47%	63	31%	50	34%	28	22%	3	75%	3	20%	44	41%	13	33%
ケ、その他の健康に関する問題があった	233	25%	3	30%	17	16%	43	23%	55	27%	43	29%	28	22%	0	0%	4	27%	28	26%	12	31%
コ、困ったことはなかった	38	4%	1	10%	4	4%	5	3%	4	2%	5	3%	11	9%	1	25%	0	0%	1	1%	6	15%
未回答	10	1%	0	0%	1	1%	1	1%	2	1%	1	1%	2	2%	0	0%	1	7%	2	2%	0	0%
合計	4464		34		507		931		941		717		525		19		55		549		186	

【表 4-③-②：Q4-③年齢別：ネット、SNS（スマートフォン）のこと】

Q4 ③ ネット、SNS（スマートフォン）のこと	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、知らない人とやりとりをした	323	34%	8	42%	53	40%	88	44%	69	34%	51	28%	33	25%	19	27%	2	15%
イ、SNS、ネットで傷つくことを言われた（された）	109	11%	2	11%	21	16%	21	10%	11	5%	24	13%	17	13%	12	17%	1	8%
ウ、怖いことを言われたり、だまされた	52	5%	1	5%	10	8%	8	4%	9	4%	9	5%	9	7%	6	9%	0	0%
エ、自分の写真を知らない人に送ってしまった	59	6%	0	0%	9	7%	20	10%	8	4%	12	7%	8	6%	2	3%	0	0%
オ、住所や学校名などを教えてしまった	25	3%	1	5%	4	3%	8	4%	3	1%	4	2%	2	2%	3	4%	0	0%
カ、その他のネット、SNSに関する問題があった	74	8%	1	5%	7	5%	13	6%	13	6%	16	9%	11	8%	12	17%	1	8%
キ、困ったことはなかった	486	51%	8	42%	64	48%	95	47%	110	54%	93	52%	72	55%	34	49%	10	77%
未回答	83	9%	2	11%	13	10%	12	6%	14	7%	19	11%	16	12%	7	10%	0	0%
合計	1211		23		181		265		237		228		168		95		14	

【表 4-③-③：Q4-③職業別：ネット、SNS（スマートフォン）のこと】

Q4 ③ ネット、SNS（スマートフォン）のこと	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生（専門学校、短大、大学、大学院）		5パートアルバイトフリーター派遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、知らない人とやりとりをした	323	34%	4	40%	44	41%	79	42%	68	33%	41	28%	32	26%	1	2%	2	13%	44	41%	8	21%
イ、SNS、ネットで傷つくことを言われた（された）	109	11%	2	20%	17	16%	20	11%	12	6%	22	15%	11	9%	1	2%	0	0%	19	18%	5	13%
ウ、怖いことを言われたり、だまされた	52	5%	1	10%	8	7%	7	4%	8	4%	11	7%	5	4%	0	0%	0	0%	7	6%	5	13%
エ、自分の写真を知らない人に送ってしまった	59	6%	0	0%	7	7%	18	10%	10	5%	8	5%	4	3%	0	0%	0	0%	9	8%	3	8%
オ、住所や学校名などを教えてしまった	25	3%	0	0%	5	5%	6	3%	2	1%	4	3%	1	1%	0	0%	0	0%	7	6%	0	0%
カ、その他のネット、SNSに関する問題があった	74	8%	1	10%	7	7%	8	4%	15	7%	21	14%	6	5%	0	0%	1	7%	10	9%	5	13%
キ、困ったことはなかった	486	51%	3	30%	52	49%	88	47%	117	57%	72	48%	76	61%	3	7%	11	73%	38	35%	26	67%
未回答	83	9%	2	20%	9	8%	15	8%	10	5%	21	14%	11	9%	0	0%	1	7%	11	10%	3	8%
合計	1211		13		149		241		242		200		146		8		15		146		55	

【表 4-④-②: Q4-④年齢別: お金、くらしのこと】

Q4 ④お金、くらしのこと	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、お金がない、お金に困った	325	34%	2	11%	16	12%	58	29%	85	42%	83	46%	48	36%	28	40%	5	38%
イ、電気、ガス、水道、電話などが止まった	16	2%	1	5%	0	0%	2	1%	3	1%	3	2%	5	4%	2	3%	0	0%
ウ、食べるものがなかった	42	4%	1	5%	1	1%	6	3%	10	5%	7	4%	9	7%	7	10%	1	8%
エ、仕事が減った、なくなった	156	16%	0	0%	1	1%	11	5%	50	25%	42	23%	29	22%	20	29%	3	23%
オ、奨学金などの返済ができなくなった	31	3%	0	0%	0	0%	3	1%	7	3%	11	6%	5	4%	5	7%	0	0%
カ、借金をした	44	5%	0	0%	0	0%	1	0%	9	4%	13	7%	12	9%	9	13%	0	0%
キ、パパ活、援助交際をした	57	6%	0	0%	3	2%	10	5%	15	7%	16	9%	7	5%	5	7%	1	8%
ク、ひととき融資などでお金を得た	12	1%	0	0%	0	0%	2	1%	3	1%	2	1%	2	2%	2	3%	1	8%
ケ、いつも行く所が休みで、行く場所がなかった	239	25%	1	5%	9	7%	54	27%	56	28%	59	33%	38	29%	18	26%	4	31%
コ、家を離れるなどの今後の見通しが立たなくなった	125	13%	0	0%	6	5%	16	8%	30	15%	35	20%	17	13%	18	26%	3	23%
サ、その他の生活上の困難があった	143	15%	0	0%	5	4%	16	8%	30	15%	34	19%	31	23%	21	30%	6	46%
シ、困ったことはなかった	345	36%	16	84%	78	59%	81	40%	67	33%	45	25%	39	30%	15	21%	4	31%
未回答	70	7%	1	5%	23	17%	21	10%	11	5%	7	4%	5	4%	2	3%	0	0%
合計	1605		22		142		281		376		357		247		152		28	

【表 4-④-③: Q4-④職業別: お金、くらしのこと】

Q4 ④お金、くらしのこと	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生 (専門学校、短大、 大学、大学院)		5パートアル バイトフ リーター派 遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、お金がない、お金に困った	325	34%	2	20%	12	11%	38	20%	76	37%	80	54%	30	24%	1	25%	7	47%	63	58%	16	41%
イ、電気、ガス、水道、電話などが止まった	16	2%	1	10%	0	0%	1	1%	0	0%	8	5%	2	2%	0	0%	0	0%	3	3%	1	3%
ウ、食べるものがなかった	42	4%	1	10%	1	1%	4	2%	5	2%	15	10%	3	2%	2	50%	0	0%	9	8%	2	5%
エ、仕事が減った、なくなった	156	16%	0	0%	1	1%	6	3%	38	18%	55	37%	13	10%	1	25%	5	33%	29	27%	8	21%
オ、奨学金などの返済ができなくなった	31	3%	0	0%	0	0%	1	1%	5	2%	12	8%	4	3%	0	0%	0	0%	9	8%	0	0%
カ、借金をした	44	5%	0	0%	0	0%	0	0%	6	3%	14	9%	9	7%	0	0%	1	7%	10	9%	4	10%
キ、パパ活、援助交際をした	57	6%	0	0%	3	3%	8	4%	11	5%	16	11%	3	2%	1	25%	0	0%	8	7%	7	18%
ク、ひととき融資などでお金を得た	12	1%	0	0%	0	0%	1	1%	2	1%	3	2%	4	3%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%
ケ、いつも行く所が休みで、行く場所がなかった	239	25%	1	10%	5	5%	41	22%	60	29%	51	34%	36	29%	3	75%	5	33%	25	23%	12	31%
コ、家を離れるなどの今後の見通しが立たなくなった	125	13%	0	0%	5	5%	9	5%	25	12%	27	18%	19	15%	1	25%	3	20%	30	28%	6	15%
サ、その他の生活上の困難があった	143	15%	0	0%	4	4%	10	5%	27	13%	38	26%	20	16%	1	25%	3	20%	32	30%	8	21%
シ、困ったことはなかった	345	36%	8	80%	66	62%	88	47%	73	35%	27	18%	45	36%	1	25%	3	20%	21	19%	13	33%
未回答	70	7%	0	0%	18	17%	24	13%	12	6%	4	3%	8	6%	0	0%	1	7%	2	2%	1	3%
合計	1605		13		115		231		340		350		196		11		28		241		80	

【表 4-⑤-②: Q4-⑤年齢別: 学校のこと】

Q4 ⑤学校のこと	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った	70	7%	2	11%	23	17%	27	13%	10	5%	4	2%	2	2%	2	3%	0	0%
イ、休校が長くなって不安になった	221	23%	10	53%	51	39%	89	44%	56	28%	12	7%	2	2%	1	1%	0	0%
ウ、先生に相談したくてもできなかった	163	17%	10	53%	36	27%	68	34%	37	18%	8	4%	3	2%	1	1%	0	0%
エ、友達、先生に会えなくてさみしかった	170	18%	8	42%	44	33%	61	30%	46	23%	6	3%	3	2%	2	3%	0	0%
オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった	16	2%	2	11%	7	5%	5	2%	0	0%	1	1%	0	0%	1	1%	0	0%
カ、勉強や宿題(課題)に困った	265	28%	12	63%	75	57%	101	50%	59	29%	14	8%	3	2%	1	1%	0	0%
キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった	266	28%	13	68%	82	62%	106	52%	48	24%	11	6%	4	3%	2	3%	0	0%
ク、その他の学校に関する問題があった	119	13%	7	37%	24	18%	35	17%	36	18%	10	6%	3	2%	3	4%	1	8%
ケ、困ったことはなかった	359	38%	2	11%	13	10%	27	13%	63	31%	104	58%	92	70%	46	66%	12	92%
未回答	140	15%	0	0%	6	5%	10	5%	22	11%	51	28%	31	23%	20	29%	0	0%
合計	1789		66		361		529		377		221		143		79		13	

【表 4-⑤-③: Q4-⑤職業別: 学校のこと】

Q4 ⑤学校のこと	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生 (専門学 校、短大、 大学、大学 院)		5パートアル バイトフ リーター派 遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った	70	7%	2	20%	17	16%	29	16%	18	9%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
イ、休校が長くなって不安になった	221	23%	5	50%	40	37%	92	49%	78	38%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	2	5%
ウ、先生に相談したくてもできなかった	163	17%	5	50%	30	28%	70	37%	54	26%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
エ、友達、先生に会えなくてさみしかった	170	18%	4	40%	35	33%	62	33%	65	32%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	2	2%	0	0%
オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった	16	2%	2	20%	6	6%	5	3%	2	1%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
カ、勉強や宿題(課題)に困った	265	28%	6	60%	62	58%	103	55%	89	43%	3	2%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	1	3%
キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった	266	28%	6	60%	70	65%	119	64%	64	31%	2	1%	1	1%	0	0%	0	0%	1	1%	3	8%
ク、その他の学校に関する問題があった	119	13%	5	50%	22	21%	31	17%	49	24%	5	3%	1	1%	0	0%	0	0%	4	4%	2	5%
ケ、困ったことはなかった	359	38%	2	20%	7	7%	22	12%	31	15%	99	66%	90	72%	4	100%	13	87%	68	63%	23	59%
未回答	140	15%	0	0%	5	5%	4	2%	8	4%	42	28%	34	27%	0	0%	2	13%	33	31%	12	31%
合計	1789		37		294		537		458		162		126		4		15		113		43	

【表 4-⑤-④: Q4-⑤学生回答者のみ: 学校のこと】

Q4 ⑤学校のこと	学生合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生（専門学 校、短大、大学、大 学院）	
	選択数	選択者/全 回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った	66	13%	2	20%	17	16%	29	16%	18	9%
イ、休校が長くなって不安になった	215	42%	5	50%	40	37%	92	49%	78	38%
ウ、先生に相談したくてもできなかった	159	31%	5	50%	30	28%	70	37%	54	26%
エ、友達、先生に会えなくてさみしかった	166	33%	4	40%	35	33%	62	33%	65	32%
オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった	15	3%	2	20%	6	6%	5	3%	2	1%
カ、勉強や宿題（課題）に困った	260	51%	6	60%	62	58%	103	55%	89	43%
キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった	259	51%	6	60%	70	65%	119	64%	64	31%
ク、その他の学校に関する問題があった	107	21%	5	50%	22	21%	31	17%	49	24%
ケ、困ったことはなかった	62	12%	2	20%	7	7%	22	12%	31	15%
未回答	17	3%	0	0%	5	5%	4	2%	8	4%
合計	1326		37		294		537		458	

【表 4-⑥-②: Q4-⑥年齢別: 望まない妊娠(予期せぬ妊娠)のこと】

Q4 ⑥望まない妊娠をした、したかもし れない不安がありましたか？	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、交際相手	33	3%	1	5%	2	2%	5	2%	8	4%	4	2%	6	5%	6	9%	1	8%
イ、夫	2	0%	0	0%	0	0%	1	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%
ウ、父親、兄、弟、その他親族	11	1%	1	5%	2	2%	3	1%	2	1%	0	0%	1	1%	1	1%	1	8%
エ、援助交際、パパ活、泊めてくれた人	19	2%	0	0%	2	2%	4	2%	5	2%	3	2%	3	2%	1	1%	1	8%
オ、その他知人	19	2%	0	0%	2	2%	4	2%	5	2%	4	2%	2	2%	2	3%	0	0%
カ、知らない人	14	1%	0	0%	1	1%	0	0%	5	2%	4	2%	3	2%	1	1%	0	0%
キ、なかった	783	82%	16	84%	107	81%	172	85%	173	85%	138	77%	108	82%	57	81%	12	92%
未回答	94	10%	2	11%	18	14%	17	8%	11	5%	28	16%	12	9%	6	9%	0	0%
合計	975		20		134		206		209		181		135		75		15	

【表 4-⑥-③: Q4-⑥職業別: 望まない妊娠(予期せぬ妊娠)のこと】

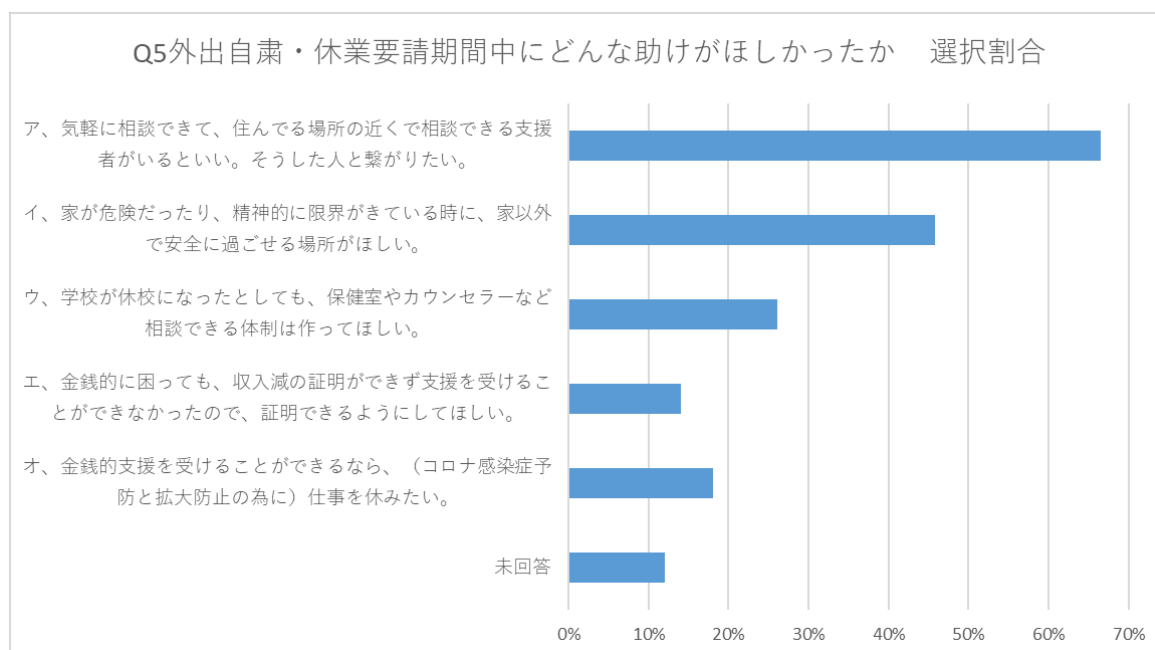
Q4 ⑥望まない妊娠をした、したかもし れない不安がありましたか？	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生 (専門学 校、短大、 大学、大学 院)		5パートアル バイトフ リーター派 遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/ 全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、交際相手	33	3%	1	10%	1	1%	5	3%	5	2%	6	4%	8	6%	3	75%	0	0%	3	3%	1	3%
イ、夫	2	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
ウ、父親、兄、弟、その他親族	11	1%	1	10%	1	1%	3	2%	3	1%	1	1%	0	0%	1	25%	0	0%	0	0%	1	3%
エ、援助交際、パパ活、泊めてくれた人	19	2%	0	0%	2	2%	3	2%	3	1%	4	3%	0	0%	1	25%	0	0%	5	5%	1	3%
オ、その他知人	19	2%	0	0%	0	0%	4	2%	2	1%	6	4%	3	2%	0	0%	0	0%	3	3%	1	3%
カ、知らない人	14	1%	0	0%	1	1%	0	0%	3	1%	4	3%	0	0%	0	0%	0	0%	5	5%	1	3%
キ、なかった	783	82%	8	80%	87	81%	163	87%	182	88%	120	81%	95	76%	1	25%	13	87%	83	77%	31	79%
未回答	94	10%	1	10%	17	16%	11	6%	12	6%	16	11%	20	16%	0	0%	2	13%	12	11%	3	8%
合計	975		11		109		189		210		159		126		6		15		111		39	

Q5 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか

Q5では、外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の内容を聞いた(複数回答可)。836人(全答者の88%)がいずれかの回答を選択した。「ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。」が最も多く67%。「イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。」が46%、「ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。」が26%、「オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。」が18%、「エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかったので、証明できるようにしてほしい。」が14%となっている(いずれも全回答者数に対する割合)。

こうした回答から、多くの人が困りごとや苦しさを抱える中で相談できる支援者につながることができなかつた状況が見て取れる。また、家以外の安全な居場所の必要性も高いと言える。さらに、経済的な事情から感染の不安を抱えながら働いていた人、経営上の理由や本人の心身の不調などにより仕事を失った人や、収入減の証明が困難なために行政の経済支援を受けられない人たちがいることも浮き彫りになった。

【グラフ5: Q5 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか】



【表 5-①: Q5 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか】

※ 選択割合は、回答者全体のうち選択した者の割合。複数回答のため、選択割合を足しあげると100%を超える。これ以降の Q5に関する表(表5関係)も同様。

外出自粛・休業要請期間中に、どんな助けがほしいと思われましたか？	件数	選択割合
ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。	632	67%
イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。	435	46%
ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。	248	26%
エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかつたので、証明できるようにしてほしい。	133	14%
オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。	172	18%
未回答	114	12%

【表 5-②: Q5 地域別: 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか】

Q5 選択肢回答	流行都道府県	選択/回答者数	流行都道府県以外	選択/回答者数
ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。	406	36%	226	36%
イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。	280	25%	155	25%
ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。	154	14%	94	15%
エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかつたので、証明できるようにしてほしい。	93	8%	40	6%
オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。	110	10%	62	10%
未回答	70	6%	44	7%
合計	1113	100%	621	100%

【表 5-③】: Q5 年齢別: 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか

Q5 選択肢回答	全年齢合計		12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。	632	67%	9	47%	71	54%	145	72%	139	68%	125	70%	90	68%	44	63%	9	69%
イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。	435	46%	11	58%	60	45%	97	48%	98	48%	77	43%	56	42%	32	46%	4	31%
ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。	248	26%	9	47%	52	39%	83	41%	63	31%	27	15%	10	8%	3	4%	1	8%
エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかったので、証明できるようにしてほしい。	133	14%	0	0%	5	4%	13	6%	29	14%	43	24%	25	19%	12	17%	6	46%
オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。	172	18%	1	5%	5	4%	16	8%	32	16%	50	28%	44	33%	17	24%	7	54%
未回答	114	12%	4	21%	24	18%	22	11%	17	8%	22	12%	14	11%	10	14%	1	8%
合計	1734		34		217		376		378		344		239		118		28	

【表 5-④】: Q5 職業別: 外出自粛・休業要請期間中にどんな助けがほしかったか

Q5 選択肢回答	全職業合計		1小学生		2中学生		3高校生		4その他学生 (専門学校、短大、 大学、大学院)		5パートアルバイト ライター派遣社員		6正社員		7個人事業主		8主婦		9無職		10その他	
	選択数	選択者/全回答者	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。	632	67%	4	40%	52	49%	137	73%	139	67%	108	72%	82	66%	2	50%	8	53%	74	69%	26	67%
イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。	435	46%	6	60%	48	45%	90	48%	98	48%	72	48%	40	32%	0	0%	4	27%	61	56%	16	41%
ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。	248	26%	5	50%	39	36%	86	46%	83	40%	14	9%	6	5%	1	25%	0	0%	8	7%	6	15%
エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかったので、証明できるようにしてほしい。	133	14%	0	0%	4	4%	10	5%	25	12%	40	27%	15	12%	1	25%	6	40%	24	22%	8	21%
オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。	172	18%	1	10%	4	4%	9	5%	31	15%	54	36%	39	31%	1	25%	4	27%	19	18%	10	26%
未回答	114	12%	3	30%	21	20%	19	10%	17	8%	13	9%	15	12%	1	25%	4	27%	13	12%	8	21%
合計	1734		19		168		351		393		301		197		6		26		199		74	

Q6 今後半年から1年先の不安とほしい支援

Q6では、外出自粛・休業要請期間が終わり、今後半年から1年くらい先を考えた時の不安やほしい支援を自由記述で聞いた。全体の38%の360人が回答をした。

地域別にみると、流行都道府県の回答者のうち、Q6に自由記述の回答をした人の割合は39%、流行都道府県以外では36%となっており、やや流行都道府県の方が自由記述の回答をした者の割合が高かったが大きな差異は見られなかった。

年齢別でみると、年齢が高いほど自由記述の回答をした人の割合が高い傾向があった。職業別に自由記述の回答をした者の割合をみると、「パートアルバイト、フリーター、派遣社員」、「個人事業主」が最も高く50%となっており、以下「主婦」が47%、「その他学生（専門学校、短大、大学、大学院）」が44%、無職が42%と続く。

自由回答の具体的な内容については、なるべく寄せられた声の内容が漏れないように項目ごとにまとめることとしたが、単に回答を羅列するよりもQ4、Q5の内容と合わせて困ったこと・不安なこと、ほしい支援をまとめて記載した方が理解しやすいと考えられることから、次章の考察の中の「主な声」に記載した。

【表6-①】：Q6地域別：今後半年から1年先の不安とほしい支援

	全体		流行都道府県		流行都道府県以外	
自由記述有	360	38%	235	39%	125	36%
自由記述なし	590	62%	366	61%	224	64%
合計	950		601		349	

【表6-②】：Q6年齢別：今後半年から1年先の不安とほしい支援

Q6 自由記述回答	全年齢合計	12歳以下		13-15歳		16-18歳		19-21歳		22-24歳		25-27歳		28-29歳		30歳以上		
記述有	364	38%	6	32%	36	27%	66	33%	86	42%	63	35%	62	47%	37	53%	8	62%
未回答	586	62%	13	68%	96	73%	136	67%	117	58%	116	65%	70	53%	33	47%	5	38%
合計	950		19		132		202		203		179		132		70		13	

【表6-③】：Q6職業別：今後半年から1年先の不安とほしい支援

Q6 自由記述回答	全職業計	1小学生	2中学生	3高校生	4その他学生（専門学校、短大、大学、大学院）	5パートアルバイトフリーター派遣社員	6正社員	7個人事業主	8主婦	9無職	10その他											
記述有	364	38%	4	40%	26	24%	56	30%	91	44%	74	50%	44	35%	2	50%	7	47%	45	42%	15	38%
未回答	586	62%	6	60%	81	76%	131	70%	115	56%	75	50%	81	65%	2	50%	8	53%	63	58%	24	62%
合計	950		10		107		187		206		149		125		4		15		108		39	

4. 困りごとと支援ニーズについての考察

Q5では、外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の内容を聞いたが、自由回答欄を設けた。また、Q6では、外出自粛・休業要請期間が終わり、今後半年から1年くらい先について必要な支援の内容について自由記述で聞いた。

いずれの質問の回答も外出自粛・休業要請期間中の困難と、それが再び来るおそれや長く続くおそれから来るつらさや必要な支援の声を届けてくれたもので、共通のものも多かった。Q4の回答内容も踏まえて、回答者の若年女性がどのような困難を抱えていたのか、そしてどのような支援が必要なのか、考察をしてみたい。

なお、寄せられた声は多岐に渡るが、多くの人が抱えている課題や背景を分かりやすくするために項目を分けて体系化することを試みた。

(1) 課題の深刻化(希死念慮、自傷行為など)

BONDプロジェクトのLINEに登録をしている回答者は、新型コロナウイルス感染症の流行以前から、生きづらさや生活上の課題を抱えているケースが多く、希死念慮を持つ人も少なくない。新型コロナウイルス感染症による外出自粛・休業要請等の影響により、課題が深刻化し不安が増大したり、希死念慮や自傷行為の増加も見て取れる。また、死ぬことさえ人に迷惑をかけたくないと考える声も寄せられた。

Q4-②の回答では「消えたい、死にたいと思った」を選択した回答者は69%、「自分を傷つけることが増えた」を選択した回答者は36%(いずれも未回答者の除いた者に対する割合)にのぼっている。具体的には以下のような声が寄せられている。

【主な声】 ※リアリティを伝えるために回答をそのまま掲載している。

- また自粛になって今より収入が減る不安、バイトを増やしたいと思っているけれど働けるところがあるのか分からない不安があります。ずっと家にいるのがストレスで家から出る時間を長くしたいけれど車を買えるほどの収入がない、行くところがないのが辛い…。ストレスで死にたくて自傷行為が復活してしまって、また自殺未遂をしてしまいそうで怖い…。
- 正社員に転職できるのか、この先働いて生きていけるのか、結婚出産とかで1人で悲しくなると思うし心が益々弱くなる。お金が欲しいほんと生きるためにお金が欲しい。やっぱり夜職しなきゃダメなのかなあ…。非正規でもかつかつじゃなくて生きていけるだけのお金や保証などが欲しい。だめなら安楽死。ホント導入して欲しい。他の人に迷惑かけずに死にたい。

- 私というよりひきこもりの友達についてです。近所に住んでいるのでなんとかお互いケアし合ってきましたが、今回の社会不安で彼女の希死念慮が強まったのか、年内に自殺すると言っています。どうすればいいかわかりません。
- 3ヶ月学校に行かないで済んで凄く気持ちが楽だったけど始まる学校のことを考えると不安だった。精神的なやる気が起こらなくて、何故だからイライラして何度も死にたくなった。誰かに言おうとしても申し訳なくて言えなくて、電話しようとしたけど手が震えて声が出なくて相談できなかった。志望校は決めたのに何故かそこに行きたいと思わなくなった。だから勉強が全く捗らない。感情のコントロールができない。
- 安楽死がしたい
- 現在、大学を休学しているので、来年から復学してちゃんとやっていけるか不安。就職や進学などができるか不安。希死念慮が強いので、一人暮らしを再開した時に自殺しそう。
- 死にたさを抱えていることを誰かに話すべきなのかそうでないのかの判断がつきません。結果、一人で抱えるという選択を選びました。人に頼るといことが難しく、どのようにしたら良いのかわからないのでそういったことの解決の糸口になるような情報を御アカウントから配信していただけると嬉しいです。
- 死にたいって気持ちがまた不意に出て来るのが嫌だなあって思います。そうなったとき相談を聞いてもらえたら助かります。
- 不況で就職できない。もうお金が払えなくて大学を辞めたけどこのままニートだと思いつらい。バイトもないから行けない。家族も自傷していることには何も言ってこないからきつと私のことはどうでもいいと思う。毎日毎日泣いてるのに気づいて貰えないし、この LINE で相談でも混み合っているとされて誰にも何も聞いて貰えないし言えません。もう限界です。死ぬしかないと思っています。
- 収入が減り金銭的に苦しくなった為、補填する為に副業を始めたら、悪質な詐欺にあった。その結果、本来なら追う必要のなかった借金を 150 万もしてしまった。悪質なサイトに騙された自分に心底呆れたし、彼氏のモラハラはどんどん酷くなって耐えられないし、ストレスが原因で体調を崩したけど病院にもかかれないうし、本当に死にたい。毎日毎日死ぬ方法を考えてしまう。

- 日常に戻るのが怖い。死にたい。とにかく、死にたい
- 死にたくなることが多くなった。大学生だから自分でどうにかしろと言われてもそんなお金もない。安心できる居場所が欲しい
- 大学受験を控えているのに、この先のことが何も考えられなくなって「自分はこの先どうなるんだろう…やっていけるんだろうか…」など全てをマイナスに捉えてしまう癖が発動してしまい死にたい・消えたい・もう疲れたと思ってました。今もです…。学校に行けないから誰に話せばいいか分からなくて困ってました💧。なので学生でも気軽に相談に行けるような暖かい場所があればなとも思いました。
- 学校を続けて行けるかどうか分からない。死にたい気持ちが増えた
- 経済的な理由で生活が苦しい方もいるのに、安定した生活ができる自分が死にたいと思ってしまうことに情けなさを感じます。でも、どうしても死にたい衝動に駆られるときがあります。
- 突然不安になって自殺未遂を起こしてしまったので、心療内科の予約が以前より取りにくいと感じました。一時的にでいいから相談出来る場所を増やして欲しい。
- 自殺しそう。不登校になりそう。ご飯がいつ食べれるかわかんない。

(2) 新型コロナウイルス感染症そのものの不安

元々、家庭や生活上の課題を抱えたり、精神的に不安を抱えたりしている人が多い中で、新型コロナウイルス感染症そのものの脅威それ自体が不安を増大させている様子が見て取れる。

また、回答者の 96%は体や心のことで何らかの困難を抱えたと回答しているが、感染が怖くて医療にかかりにくい状況や精神科や心療内科の予約が取りにくく受診しにくかったという困難を抱えていたことが見て取れる。

【主な声】

- ワクチン・治療薬の開発をしてほしい
- 検査体制の整備をしてほしい
- 第二波が怖い
- ビデオ通話で診療できる体制をつくってほしい
- 医療相談のチャットを増やしてほしい
- 感染がこわくて外出しにくい
- 満員電車や人の密集している場所が怖い
- 感染をおそれて人と接することが怖い
- 精神的な課題を抱える人が増えて精神科や心療内科が受診がしにくい
- 感染がこわくて受診しにくい

(3) 家庭の問題(配偶者、親、同居人などからの暴力・暴言、家庭内不和など)

元々、課題を抱えている家庭において、家族や同居人の課題が深刻化したり、ストレスが増える状況の中で、家庭問題が深刻化した様子が見て取れる。未回答を除く回答者の 56%が何らかの家庭の問題を抱えていたと回答したが、自由回答に寄せられた主な声は以下のとおり。

【主な声】

- 家族・同居人のストレスが増えて暴力・暴言、ケンカがひどくなった
- 自傷しても何も言ってくれない
- DV や彼氏のモラハラがひどくなった
- 親に常に監視されていてつらい

(4) 学校に関する不安

休校による学業の遅れ、学校再開に伴う学習の詰め込みといった学業そのものの不安、さらに受験に対する不安の声も多く寄せられた。家庭が安心できないケースにおいては、図書館も閉鎖しており外出自粛中に安心して学習できる場所が確保できないという課題も浮き彫りになった。

また、学業そのものだけでなく、行事がなくなったことによる悲しい気持ちや人間関係構築の不安の声も見られた。

家庭に問題を抱えているケースであって先生、カウンセラー、友人など学校に信頼できる人がいるような人の場合は、こうした信頼できる話を聞いてくれる人とのつながりが絶たれてしまったことによるつらさを感じていたことがわかった。この点については、Q5 の外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の選択式回答でも、学生の回答者 510 人から未回答者 60 人を除く 450 人のうち、47% (213 人) が「ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい」を選択している。

さらには、経済的な理由で学業継続や卒業後の就職に不安を感じている声も多かった。

【主な声】

- 休校中の勉強の遅れ、留年・ドロップアウトの不安
- 休校中の遅れを取り戻すための詰め込み型の授業や勉強が辛い
- 受験を乗り切れるか不安
- 家以外の安心して勉強できる場所がほしい
- 学校行事がなくなったことで悲しい、友達ができるか不安
- 家族の収入源で塾をやめさせられた
- 学費が払えるか不安、奨学金や教育ローンの返済が不安
- 休校中でも先生やスクールカウンセラーに相談できるようにしてほしい
- 進学をきっかけに問題を抱える家庭を出ることができたはずができなくなった
- 学校の間関係が辛い
- 精神的な課題を抱えており、学校に通うのも学費を稼ぐのも辛い、このままだと学校も仕事も続けるのが難しい

(5) 学校・職場など通う場所に問題がある場合

家庭よりも学校や職場が辛さの原因となっている人の場合は、外出自粛・休業要請により、この間の悩みが少し減ったケースもあるが、それだけに再開の不安が大きい様子が見て取れる。

【主な声】

- 休校で少し落ち着いたものの、学校再開自体が不安、分散登校だけでもつらかった
- 職場が辛い、パワハラがあっても転職できるか不安で辞められない
- 不登校・引きこもりで卒業して就職する自信がない、話し相手がほしい

(6) 仕事の不安

回答者の中には、正社員以外の働き方をしている人も多く(就業している回答者のうち54%がパート・アルバイト・フリーター・派遣社員)、外出自粛・休業要請による雇用の影響を受けやすい人たちが多くと考えられ、実際にそのような不安の声が多数寄せられた。また、雇用環境の悪化により、就職等に不安を抱える学生の声も寄せられた。

また、医療・福祉系の仕事など仕事はあるものの、感染の不安がある中で休むことができず、非常な不安の中で仕事に当たっていた、そしてそれにもかかわらず収入が低いという声が寄せられている。お金のためにやむを得ず風俗の仕事をしているという声もあった。

精神的・身体的課題を抱える中で、状況を理解して働かせてくれる場所がほしいという声やそういった女性のために働く前に必要となる就労支援・起業支援を求める声があり、様々な課題が複合的にある中でも、仕事の安定により収入や生活を安定させていくことの重要性が見て取れる。

【主な声】

- 就職の不安
- 就職できてもやっていけるか不安
- 就職に備えた資格取得ができるか不安
- 収入減少の不安
- 将来の生活の不安
- 解雇の不安
- バイトや派遣の仕事がなくなる不安
- お金が必要なので風俗で働くのを辞められない
- 自分を売らなくてもよい仕事がほしい
- 正社員など安定した仕事に就きたい
- コロナで失業したが仕事が見つからない
- 副業をはじめたら悪質なサイトで詐欺にあって借金を抱えた
- 職場の人の余裕のなさやパワハラの問題。転職の不安があり離職しにくい
- 在宅勤務で同僚が見えずとり残されるのではないかと不安
- 医療職・福祉職・サービス業など感染の危険に晒されながら働く不安と低賃金
- サービス業なので第二波が来るとまた仕事なくなる
- 精神的な課題を抱えていても理解して働かせてくれる場所、自分のペースで働かせてくれる場所
- 女性専用の就労支援・起業支援の場所がほしい

(7) 収入に関する不安

Q4-②で、「ア、お金がない、お金に困った」と回答した者は未回答者を除く回答者の37%であり、経済的に困難を抱える人も多かった。同じ数字を、学生のみで見ると28%、「パート・アルバイト・フリーター・派遣社員」「正社員」「個人事業主」「主婦」「無職」を合計した者(以下「学生以外」という。)で見ると47%となっており、学生以外では半数近くが経済的に困難を抱えた様子が見て取れる。なお、正社員は27%であることから無職や不安定な就労形態の人がより経済的に困っている一方で、正社員でも経時的に困っている人が一定数いることがうかがえる。

また、Q5の外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の選択式回答でも、未回答者を除く回答者の21%(学生以外に限定すると33%)が「オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。」を選択している。同じく16%(学生以外に限定すると24%)が「エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかつたので、証明できるようにしてほしい。」とそれぞれ回答している。この収入証明の問題は正社員に限定すると14%にとどまっており、正社員以外の就業者や主婦、無職の人が特に直面したケースが多いことがうかがえる。

生きづらさを抱える若年女性については経済的支援のニーズが高く、また、非正社員を中心に雇用先との関係や手続の煩雑さから収入減の証明書を準備できないという課題があり、支援の必要性が高いにもかかわらず支援が届いていないことがうかがえる。給付金の迅速な支給や定期的な支給を求める声もあった。

【主な声】

- 公的な経済支援がほしい(働けない、生活できない、学費が払えない、食事もできない)
- 給付金がなかなか振り込まれない
- 少額でもよいので定期的に給付してほしい
- 仕事もない、お金もない、でも社会保険は納付させられる
- 親や夫など主な稼得者の収入減少で生活が壊れる不安

(8) 異性、性・妊娠に関する不安

Q4-⑥で、望まない妊娠(予期せぬ妊娠)をした、したかもしれない不安があったという回答を選んだ者は、未回答者を除く回答者の9%いた。また、望まない妊娠(予期せぬ妊娠)以外にも、妊娠中に母子学級やセミナーが中止になったことで、相談やママ友を作るきっかけを失ったケースがあった。結婚や妊娠の時期が遅れたり不安定になったという声があった。不安感などから男の人とのつながりを求めてしまったり、外出自粛明けに肉体関係の求めを断れなくなってしまったという声もあった。

【主な声】

- 妊娠中だが、母親学級やセミナーが中止になった。相談機関やママ友がほしい。
- 収入面から妊娠の時期に迷う
- 彼氏との同棲計画も白紙、結婚・妊娠も遅れる
- DV 不安のないパートナーと出会えるか不安
- 不安感と逃げ場のなさから男の人とのつながりを求めてしまう
- コロナの期間、数人の男友達から肉体関係を求められる回数が増えた。外出自粛だから、と理由をつけて断ってきたが、自粛明けに断れず一度会ってしまった。断り方がわからない。

(9) 会いたい人に会えないつらさ

友達や恋人などに会えないことにより、さみしさを抱えたり、話を聞いてくれる人がいなくなったという声があった。

【主な声】

- 海外の恋人に会えない
- 好きな人に会えない
- 頼れる友達に会えない
- 支えている引きこもりの友達に会いにいけないので本人が死にたがっている

(10) 気分転換ができない

Q4 の選択肢にはなかったが、気分転換や息抜きができなくなったというつらさをうたえる声も寄せられた。主な声は以下のとおり。

【主な声】

- お祭り、ライブ、クラブ、カラオケに行けない
- 逃げ場になっていた夜の街に行けなくなった
- 友達や好きな人に会えない

(11) 相談や話を聞いてくれる人

必要な支援については相談できる場所がほしいという声が非常に多く Q5 の外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の選択式回答でも、未回答者を除く回答者の67%が「ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい」を選んでいる。

どこに相談してよいか分からない、相談しても混雑でつながらないという声や夜間の相談や曜日の拡大を求める声があった。また、相談機関を知っていても、電話や SNS 相談が混雑でつながらないという声も多く、相談ニーズが高まっていたことと、そのニーズに対して相談を受ける社会資源が足りていない様子がわかる。特に、独身の若年女性の相談できる場所が少ない(母子家庭向けのものはある)、18 歳以上の相談先が少ないという声があり、困難を抱える若年女性が制度の谷間となってしまうことがうかがい知れる。

また、1 回の相談時間が短い、相談員が毎回変わると相談しにくいという声もあり、相談員の確保・育成を進める必要性がうかがえる。

相談手法では、SNS、メール、電話、テレビ会議など実際に会えなくても相談を受けられる手法を望む声が寄せられている。一方で、近くで対面で相談できたり気軽に立ち寄れる場所が欲しいというニーズも寄せられており、若年女性の相談機関の拠点数を全国的に増やしていく必要性も見て取れる。「気軽に」という言葉も自由回答からよく見られることや相談することが迷惑ではないかと考える人もいることから、相談のハードルを下げる必要性が見て取れ、民間団体の相談機関も必要なことがうかがえる。

【主な声】

- 話を聞いてくれる人がいない
- 相談の電話や LINE など混雑でつながらなくて困る。特に急に死にたくなった時に困る。
- 夜間に相談できるところがほしい、曜日を増やしてほしい
- 1回の相談時間が短い
- 相談員が毎回変わると相談しにくい
- SNS、メール、電話、テレビ会議での相談がほしい
- 気軽に相談ができる場所がほしい
- 児相ほど堅苦しくない気軽に相談できる場所がほしい
- 相談機関につながなくてもいいから誰か話を聞いてほしい
- 近くで対面でも相談できる場所、気軽に立ち寄れる場所がほしい
- 相談やカウンセリングを無料で受けたい
- 相談するのも迷惑ではないかという人にとっての自然に相談できる場所
- 独身の若年女性の相談できる場所が少ない
- 18歳以上の相談先が少ない
- 暴力被害は保護してくるけど、暴言で心が傷ついた時に理解してもらえない
- 悩みや課題の解決策がわからない
- どこに相談してよいか分からない
- 家を出たいが出るために必要な情報提供がほしい

(12)居場所(一時的・中長期的居場所・自立支援・就労支援)

Q5 の外出自粛・休業要請期間中にほしかった支援の選択式回答では、未回答を除く回答の 52%が「イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。」を選択しており、新型コロナウイルス感染症の影響で安心できる居場所を失った人が多いことが明らかになっている。自由回答では、さらにその背景や具体的な居場所に関する声が寄せられた。

短期的に避難できる居場所についてのニーズが高く、また無料低額の女性専用の避難所を求める声が寄せられた。実際に、外出自粛・休業要請期間中に短期の避難所を設けた都道府県があったが、体育館のような男女混合の場所で若年女性が実際には利用するのが難しいものしかないとあつた。

また、安心できる居場所がほしい、近くで気軽に立ち寄れる場所がほしい、相談するのも迷惑ではないかという人にとって自然に集える場所と傾聴の場所がほしいといった声が寄せられており、相談のハードルを下げる観点からも、相談の強い意思がその時なくても、例えばカフェのような自然に通えるような場所が望ましいと考えられる。そうした場所に集うことによって、自然に相談につながりやすくなるし、また同じような悩みを抱える若年女性同士の交流による癒やしの効果も期待できる。

短期的な避難施設や通いの場に加えて、生活を立て直すための無料低額のシェアハウスなどの住居を求める声も寄せられた。こうした自立や次の生活が決まるまでの住居となる若年女性に適した居場所が必要と考えられる。また、安心できる居場所に加えて、社会生活復帰・自立に向けて、人間関係構築やコミュニケーション、若年女性向けの就労支援・起業支援が必要という声も寄せられた。

こうした支援が一貫して提供できれば、一度生活を安定させるとともに、困難な状況を落ち着かせた上で、自立に向けた準備ができることから、困難を抱える若年女性の長い人生を考えるとこうした根本的な生活の立て直しの必要性は高く、重要な指摘と言える。

【主な声】

- 数日でも一時的に避難できる無料の場所がほしい
- 同じような悩みを抱える人と話したい
- 誰かと一緒に過ごせる場所がほしい
- 安心できる居場所で話を聞いてほしい
- 近くで気軽に立ち寄れる場所がほしい
- 相談するのも迷惑ではないかという人にとって自然に集える場所と傾聴の場所がほしい
- 第3の場所があれば、そこに居場所を見いだせる人がいて、逃げ場や、新たな活躍、活動の場にできる。そこでの新たな人との出会いが、心にプラスな動きを与えることは必ずある。
- 家が安らげない、学校・職場の人間関係に悩んでいる人のための第三の居場所がほしい
- 実家を出たいがお金がない、中長期的な安心して過ごせる無料低額の住居・居場所
- 年齢を問わず女性専用の無料低額のシェルター、シェアハウス、ネットカフェが必要
- 社会生活復帰に向けたリハビリできる場所がほしい
- 人間関係・コミュニケーションができるような場所がほしい
- 女性専用の就労支援・起業支援の場所がほしい(再掲)

5. 必要な支援

新型コロナウイルス感染症の流行以前から、家庭が安心できる場所でなかったり、学校、職場などでいじめや人間関係のトラブルなど困難を抱え、身体的・精神的・経済的困難を抱えて傷つきやすい若年女性たちが、新型コロナウイルス感染症やそれに伴う外出自粛・休業要請により、本人の困難や不安も大きくなった。

そして、家族や同居人の経済環境が厳しくなるとともに、精神的身体的状態も悪化したことにより、家族等からの暴言・暴力などが増えて、ますます家庭が安心できない場所になった様子が浮かび上がった。

平時であれば、こうした環境で暮らしている若年女性は、学校、友人、図書館、街、相談機関など家庭以外の安心できる居場所や話を聞いてくれる人を求め、危ういながらもなんとかバランスをとっているところであるが、コロナ禍においては、休校、図書館の閉鎖、在宅勤務、仕事の喪失・減少、街中の施設の休業、相談機関の活動縮小という事態が起こり、家庭に居続けなければならなくなってしまった。

これにより、平時から困難を抱えている若年女性がより厳しい状況になったにも関わらず、平時以上に逃げ場や居場所がなくなり、相談できる人もいなくなり、孤立化している状況が生じてしまった。つまり、普段から困難を抱えている人が、より困難を抱えて相談や支援が必要になっているにもかかわらず、相談や支援も縮小してしまった。

感染の第二波が来ることも予想されているが、同じような負のスパイラルを起こさないようにするため、当事者の声を踏まえて以下の 5 つの観点に分けて必要な支援策を検討したい。

(1) コロナ禍でも機能する相談支援体制の整備と平時からの備え

コロナ禍では、日頃から困難を抱えており、かつ、家庭に問題を抱えている若年女性が家庭以外の居場所がなくなり深刻な状況に追い込まれた。にもかかわらず、社会の相談支援機能が平時よりも小さくなったことから、極めて困難な状況が続いた。このため、コロナ禍においても困難を抱える若年女性が孤立化することのないよう、以下のような支援が必要である。

① 平時からの相談機関の整備充実

支援を求めてもメールの返信が届かないケースや LINE 相談がつながらないなど、支援を必要とする若年女性に対して相談支援の提供量が不足している状況が、改めて明らかになったことから、平時から相談機関やキャパシティを増やすことが必要である。

② 相談時間の増加

相談窓口の開いていない時間帯に相談ができなくて困っていたり、自殺念慮を抱える女性に対応するよう、夜間・深夜帯の相談や曜日を増やすなど支援の拡充が必要である。この際、相談員が疲弊しないよう、シフト制が組めるように余裕を持った人員配置ができる制度設計が必要であることに留意が必要である。

③ 相談員の育成・研修の充実

相談機関の整備・増加に伴い、新たな相談員も増えてくるが、そうした相談員の対応によっては困難を抱えたり、自殺念慮を持つ若年女性の状況が悪化するおそれもあることから、中長期的視点に立って、支援者の育成・研修体制を整えることが必要である。また、ネット上のトラブルにも対応できるよう、そうしたトラブルの内容や支援に関する研修も充実させる必要がある。

④ SNS やテレビ会議システムを活用した相談の充実

コロナ禍においては、電話相談の継続が困難となる相談機関側の事情もあり、また、相談する者も暴力の加害者である家族から離れられない状況の中で電話相談が困難な状況も明らかとなった。このため、SNS 相談の充実が必要である。また、家庭から距離を置くことが可能となった場合によりきめ細やかな相談が可能となるようテレビ会議システムを活用した相談の充実も必要である。また、こうした取組は、支援団体が全国津々浦々に育っていない状況においては、平時から必要である。

⑤ 相談機関の面的拡充とネットワークの構築

身近に相談できる人や機関を求める声が多い中で、現状では若年女性の支援を行っている団体は全国に広がるに至っていない。アンケートでも明らかになったように、相談したい若年女性は全国にいたので、こうした支援団体が各地域に拠点を増やせるように行政の支援策も面的な拡充が必要である。また、一つの団体が全国をカバーするのは困難であることから、各地の支援団体をネットワーク化するための協議会や研修会の実施も必要である。

⑥ 対面の相談実施方法の検討

コロナ禍においても、どうしても対面の相談が望ましいケースや緊急保護が必要なケースもある。こうした深刻なケースに対応することは、医療そのものではないが人命にかかわるようなケースもあることからエッセンシャルワーカーとして安心して相談支援が提供できるよう行政の後押しが必要不可欠である。相談機関への感染症対策のための物資や相談場所の提供などの支援を確保する必要がある。

(2) 家、学校、職場以外の居場所づくり

コロナ禍では、元々家庭が安心できる場所でない環境の若年女性が、さらに苦しい状況に追い込まれた。学校や職場、さらには街などの居場所を失うことになっても、安心できる居場所を確保することが必要である。また、こうした居場所づくりは、そもそも困難な状況の若年女性を減らすために平時からの充実が必要である。

① 緊急的なシェルター機能の確保・充実

数日でも、危機的な状況の家庭を離れて落ち着いた環境で相談支援を受けることが重要であるが、コロナ禍においてはそのような場所が非常に少なかった。東京都においては生活困窮者自立支援制度の下でチャレンジネットの支援により数日間ホテルに宿泊することが可能であったが、県によっては大きな施設に男女ごちゃまぜの避難所を整備したところもあった。若年女性が安心して過ごせる個室の避難所を地域を問わず用意する必要がある。

② 通いの居場所

緊急事態宣言下では、重篤なケースの対面相談も可能とすべきことは上記(2)⑥に述べたが、宣言の解除後においては、困難を抱える若年女性が通いで集うことができ、相談も受けられる場所が必要である。こうした居場所は、平時から相談のハードルを下げたり、若年女性同士の交流を含めた多様な支援を行う観点からも必要である。

③ 一定期間の住居となる居場所の拡充

居場所のない若年女性が一定期間、自立に向けて安心して生活できる居場所としては、厚生労働省の若年女性支援モデル事業や内閣府のDV 被害者等セーフティネット強化支援パイロット事業があるが、現状ではキャパシティが小さく居室が埋まっているにもかかわらず、児童相談所から一時保護委託を受けざるを得ないケースもあった。これらの事業の恒久的な実施と定員の拡充が必要である。

(3) 学校における支援

休校になったことで、学校で相談できる人とつながることができなくなって困ったケースもあることが分かった。また、休校中に精神的な問題を抱えたり、予期せぬ妊娠の不安を持つケースもあることから、休校中でも保健室やスクールソーシャルワーカー等が継続的活動できるようにすべきである。

(4) 若年女性向けの就労支援

コロナで雇用不安も高まっているが、仕事が安定していることが生活の基盤となることから、困難を抱える若年女性に合ったキャリア相談、職業訓練、求人開拓、就職支援といった一貫した就労支援の機能も非常に重要である。困難を抱える若年女性との継続的な関わりや生活相談とセットで本人の特性や希望に合う就労支援を提供するモデルづくりを進めるべきである。雇用が安定していることは、平時から困難を抱える若年女性が長く安心して人生を送れるようになるためにも必要である。

(5) 新型コロナウイルス感染症に対応した経済的支援

様々な経済支援が展開されたものの、その支援が真に困難を抱える者に届いているか、また迅速に支援が届いたかについては、課題を残している。特に、日頃から困難を抱えている若年女性の場合は、さらに深刻な状況に追い込まれることから、重点的な支援が必要である。具体的には、以下のような支援が必要である。

① 休業補償や企業の経営支援など雇用の維持のための支援策の充実

困難を抱える若年女性の中には不安定な雇用の者も多い。社会全体として非正規雇用やフリーランスの人への支援の充実を図ることが若年女性の困難の深刻化を防ぐ観点からも必要である。

② 経済的支援の支給の迅速化と重点化

特別定額給付金などの支給を迅速にすることは、困窮していない人以上に困難を抱える若年女性にとっては死活問題である。また、その給付金も困難を抱える若年女性のように支援ニーズの高い者や困窮している者にはより重点化することも検討が必要と思われる。また、生活を支えるために定期的な支給の必要性についても検討が求められる。

③ 家庭問題を抱える者が経済的支援を受ける手続の簡素化の検討とその周知徹底

特別定額給付金は、世帯主が受給権者であったことから、家庭に問題を抱える者にとっては、困っているにもかかわらず受け取れなくなるという大きな課題があった。こうした者が給付金を受け取れるように政府は累次の運用改善を行ったが、やはり手続が煩雑であり、かつ、そうした行政の支援や手続に関する情報は困難を抱える人ほど把握するのが難しい。このため、こうした手続を民間団体にも迅速かつ確実に周知するとともに、そもそも簡便な手続で受給できるような方策の検討が必要である。

(6) 継続的な若年女性の状況の把握

今回の調査において、コロナ禍において生きづらさを抱える若年女性の状況がどのように変化したのか、そして必要な支援策はどのようなものかについて明らかにすることができた。

こうした生きづらさを抱える若年女性たちの存在は、社会的に認知され、そして政府が取り組むようになってから数年である。これからより効果的な政策を構築し、地方自治体や民間団体が真に対象者に届く支援を広げていくためには、対象者に一番近い支援団体が若年女性の状況やニーズを常に把握して、今後の支援や政策の進展に活かしていくサイクルを回すことが非常に重要である。

引き続き、このような活動に官民をあげて取り組めるように、実態把握のための調査を継続していくことが必要である。

むすび

子どもでもない、母子家庭とも DV 被害者とも違う、言わば従来の福祉制度のはざまに
なっているような、生きづらさを抱える若年女性の存在は、10 年あまり前にその存在に気づ
いた民間団体が支援を始めた。

それから徐々にメディアなどでも報じられるようになり社会問題として認知が広がっていっ
た。そうした中で国会や政府においても政策課題として取り上げられ、多くの関係者が議論
を進めてこられた結果、数年前から関係分野の予算事業がスタートするなど、政策的な対
応がとられるようになってきた。

こうした政策的な対応のおかげで、生きづらさを抱えながらも頼る人のいない若年女性が
相談できる場所が徐々に増えてきていた。しかしながら、今回のアンケートでも明らかになった
ように、まだまだ支援ニーズに対して相談機関や支援は全く足りていないことから、さらに若年
女性の支援政策の強化・拡充が求められる。

今回、950 人の若年女性が届けてくれた声は、行き場のないうらさを抱えた若年女性が
誰かに向けた SOS のようにも見える。950 人の他にも同じような若年女性がこの社会にはた
くさん存在する。あげてくれた SOS を社会が受け止め、今後さらに若年女性が必要とする支
援が広がり届けられるよう、政策の検討に活かされることを心から願っている。

私たちも支援を広げる努力、若年女性の声を届ける努力を続けていきたい。

参照資料

アンケート調査 配信内容

【運営】

LINE アカウント名「10代20代の女の子専用LINE」

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

<https://bondproject.jp>

【対象者】

BOND プロジェクト公式 LINE 友達登録者

【内容】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛等による10代20代の生きづらさを抱えている女の子たちが受けた影響について調査し、実態を把握することで、今後の対策や支援に生かせるよう、社会に発信していくことを目的としています。

【情報の取り扱い等について】

回答していただく中での個人情報は、当法人事業及び、事業の目的以外に使用せず、個人情報の秘密を保持し、内容の公表等には個人が特定される情報は一切開示いたしません。

上記の内容を了承いただいたうえで、ユーザーは、自らの責任において本アカウントを利用し、本アカウントにおける一切の行為及びその結果について一切の責任を負うものとします。

承認ボタン

Q1 あなたの年齢を教えてください。

- ・12歳以下
- ・13-15歳
- ・16-18歳
- ・19-21歳
- ・22-24歳
- ・25-27歳
- ・28-29歳
- ・30歳以上

Q2 あなたの職業を教えてください。

- ・小学生
- ・中学生
- ・高校生
- ・その他学生(専門学校、短大、大学、大学院)
- ・パート・アルバイト・フリーター・派遣社員
- ・正社員
- ・個人事業主
- ・主婦
- ・無職
- ・その他

Q3 あなたが住んでいる場所を教えてください。

(47 都道府県の中から選択)

Q4 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛や休業要請の影響で困ったことについてお聞きします。

この期間に回数が増えたなど、困っていた項目があれば選んでください。(複数回答可)

① 家族・おうちのこと

- ア、(家族から)暴言を言われる
- イ、(家族から)イライラをぶつけられる
- ウ、(家族から)叩く、蹴る、引っ張られる、物を投げつけられる
- エ、(家族から)体をさわられたり、裸をジロジロ見られる
- オ、家事や育児でストレスが大きく、子どもにあたってしまった
- カ、夫、同居人などから DV 被害(暴力・制限)があった
- キ、上記以外の家族関係の問題があった
- ク、困ったことはなかった

② 体・心のこと

- ア、眠れない
- イ、やる気がおきない
- ウ、体に力が入らない
- エ、食べる元気がなくなった
- オ、心配(不安)なことが増えた
- カ、消えたい、死にたいと思った
- キ、ひとりぼっち(孤独)だと感じた
- ク、自分を傷つけることが増えた
- ケ、その他の健康に関する問題があった
- コ、困ったことはなかった

③ ネット、SNS(スマートフォン)のこと

- ア、知らない人とやりとりをした
- イ、SNS、ネットで傷つくことを言われた(された)
- ウ、怖いことを言われたり、だまされた
- エ、自分の写真を知らない人に送ってしまった
- オ、住所や学校名などを教えてしまった
- カ、その他のネット、SNSに関する問題があった
- キ、困ったことはなかった

④ お金、くらしのこと

- ア、お金がない、お金に困った
- イ、電気、ガス、水道、電話などが止まった
- ウ、食べるものがなかった
- エ、仕事が減った、なくなった
- オ、奨学金などの返済ができなくなった
- カ、借金をした
- キ、パパ活、援助交際をした
- ク、ひととき融資などでお金を得た
- ケ、いつも行く所が休みで、行く場所がなかった
- コ、家を離れるなどの今後の見通しが立たなくなった
- サ、その他の生活上の困難があった
- シ、困ったことはなかった

⑤ 学校のこと

- ア、友達、いじめ、不登校などの悩みが減った
- イ、休校が長くなって不安になった
- ウ、先生に相談したくてもできなかった
- エ、友達、先生に会えなくてさみしかった
- オ、給食がなくなって昼ごはんが食べられなかった
- カ、勉強や宿題(課題)に困った
- キ、久しぶりに学校が始まることになって心配になった
- ク、その他の学校に関係する問題があった
- ケ、困ったことはなかった

⑥ 望まない妊娠をした、したかもしれない不安がありましたか？

その相手は誰ですか？

- ア、交際相手
- イ、夫
- ウ、父親、兄、弟、その他親族
- エ、援助交際、パパ活、泊めてくれた人
- オ、その他知人
- カ、知らない人
- キ、なかった

Q5 外出自粛・休業要請期間中に、どんな助けがほしいと思いましたか？ 当てはまる項目があれば選択し、その他にもあれば自由記述をしてください。

ア、気軽に相談できて、住んでる場所の近くで相談できる支援者がいるといい。そうした人と繋がりたい。

イ、家が危険だったり、精神的に限界がきている時に、家以外で安全に過ごせる場所がほしい。

ウ、学校が休校になったとしても、保健室やカウンセラーなど相談できる体制は作ってほしい。

エ、金銭的に困っても、収入減の証明ができず支援を受けることができなかったので、証明できるようにしてほしい。

オ、金銭的支援を受けることができるなら、(コロナ感染症予防と拡大防止の為に)仕事を休みたい。

自由記述

Q6 外出自粛・休業要請期間が終わり、今後半年から1年くらい先を考えると、どんな不安がありますか？ また、どんな助けがほしいと思いますか？

自由記述

もう少し詳しく聞かせてもらいたい場合、
こちらから連絡しても大丈夫な方は、メールアドレスを記入してね。

アドレス入力欄

ご協力ありがとうございました！

何かあれば BOND プロジェクトに連絡してね！

【お問い合わせ先】info@bondproject.jp

【相談先】LINE・メール・電話などにて受け付けています。<https://bondproject.jp>

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト